



修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は
まず、お買い上げの販売店へお申し出下さい。

製品・技術・その他のお問い合わせ

ハスクバーナ・ゼノア株式会社 国内営業本部



0570-084987

月～金/9:00～17:00(土日祝、弊社指定休業日は除く)

<http://www.zenoah.co.jp/>

ハスクバーナ・ゼノア株式会社

本社: 〒350-1165 埼玉県川越市南台1-9

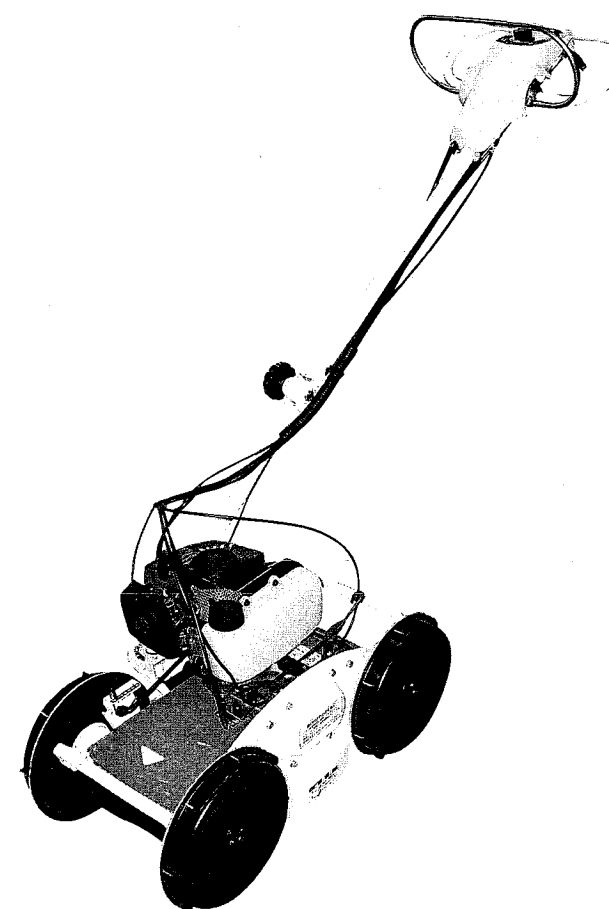
(平成24年4月現在)
ZGC300D-EZ
品番 L6283-6111-1



ゼノア 自走式傾斜刈機

取扱説明書

ZGC300D-EZ



⚠ 注意

- 製品をお使いになる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 取扱説明書は大切に保管してください。

ハスクバーナ・ゼノア株式会社

専門用語の説明

- 始動ポンプ 手動によりキャブレタに燃料を送るポンプです
- 主クラッチレバー エンジンの回転をコントロールするレバーです
- 進行方向レバー(シャトルレバー) 進行方向を切換えるレバーです
- ハンドル上下ロックレバー ハンドルの上下高さを調節するレバーです
- ハンドル左右ロックレバー ハンドルの左右回動位置を調節するレバーです
- 刈高さ調節レバー 地面からの刈刃高さを調節するレバーです
- 刈刃クラッチレバー 刈刃への動力を“入”“切”するレバーです

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

▲ 安全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、▲表示ラベルが汚損したり、はがれた場合は購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

 **危 険** : 注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

 **警 告** : 注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注 意** : 注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重 要 : 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足 : その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、草刈機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造はしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。

(詳細は保証書をご覧ください。)

自走式傾斜刈機を安全にしかも上手にご使用していただくため、この取扱説明書は次の手順で構成されていますので、基本操作から草刈り作業まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

- 1. ▲安全に作業するために：安全作業をしていただくために基本的注意事項や▲表示ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し、必ず守ってください。

動かす前に諸装置を理解しましょう

- 2. 諸装置の説明：諸装置のはたらきをまず理解し、間違った操作をしないでください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

- 3. 運転前の点検：作業中のトラブル防止のため、毎作業前の点検内容を理解し、必ず実施してください。

最初にエンジンの安全基本操作を体得しましょう

- 4. エンジンの始動と停止：機体の突然の発進をさせないため、エンジンの始動手順と停止を体得してください。

次に自走式傾斜刈機の安全走行のための基本操作を体得しましょう

- 5. 自走式傾斜刈機の運転：
 - (1)安全に機体を走行・停車させる基本操作を体得してください。
 - (2)毎作業前に点検を必ず実施してください。
 - (3)自走式傾斜刈機をほ場へ安全に移動させるため、トラックへの安全な積込み・積降しと運搬方法を理解し、必ず守ってください。

各装置を理解し、自走式傾斜刈機の性能を最大に発揮させましょう

- 6. 上手な草刈り作業のしかた：ほ場条件にあった各部の正しい調節、安全で正しい草刈り作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

- 7. メンテナンス：機械を長持ちさせるために、草刈りシーズン前後・長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し、来シーズンに備えてください。

自走式傾斜刈機がもしもの不調のときは

- 8. 自走式傾斜刈機の不調と処置：異常や故障かな？と思われたとき、現象に応じて、処置をしてください。

目次

▲安全に作業するために……▲-1

1. 安全作業をするため
次のことがらを必ず守ってください……▲-1
2. ▲表示ラベルの種類と貼付け位置……▲-4
3. ▲表示ラベルの手入れ……▲-5

サービスと保証について……1

- ご相談窓口……1
- 補修用部品の供給年限について……1

各部の名称……2

諸装置の説明……3

- エンジンスイッチ……3
- リコイルスタータ……3
- チョークレバー……3
- 主クラッチレバー……3
- 進行方向レバー(シャトルレバー)……4
- 刈刃クラッチレバー……4
- ハンドル上下ロックレバー……5
- ハンドル左右ロックレバー……5
- 刈高さ調節レバー……5

運転前の点検……6

- 日常点検項目……6
- 燃料の点検・補給……7
- エアクリーナの清掃……7
- メッシュカバー、マフラ周辺部の点検・清掃……8
- 飛散防止カバーの点検・清掃……8
- 刈刃および刈刃周辺部の点検……9
- ブレーキワイヤの点検……10

エンジンの始動と停止……11

- 始動のしかた……11
- 各種レバー位置を確認する……11
- 始動ポンプを操作する……11
- エンジンスイッチを操作する……11
- リコイルスタータのハンドルを引く……12
- 停止のしかた……12

自走式傾斜刈機の運転……13

- 移動走行について……13
- 走行のしかた……13
- 停車のしかた……13
- エンジンを止めて移動する場合……13
- 自動車への積み込み・積降し……13
- あゆみ板を使用する場合の積み込み・積降し……14
- 乗用車への積み込み・積降し……14
- 輸送時の固定のしかた……15

上手な草刈り作業のしかた……16

- 作業ができる草丈と法面角度……16
- 草丈の条件……16
- 法面の角度……16
- 草刈り作業のしかた……16
- ハンドル上下高さ調節……17
- ハンドル左右回動調節……17
- 刈高さ調節……17
- 基本操作……17
- 法面での作業のしかた……19
- 溝越えのしかた……19

メンテナンス……20

- 洗車時の注意……20
- 定期点検と処置……20
- 定期点検・交換一覧表……21
- 点検・注油一覧表……21
- 各部オイルの点検・補給・交換・注油……22
- ミッションケースオイルの点検・交換……22
- 駆動チェーンへのグリース……22
- 車軸への注油……23
- 各部の点検・調整・清掃・交換……23
- 刈刃の交換……23
- 車輪駆動ボルトの交換……25
- 駆動チェーンの点検・調整……25
- 各ワイヤの点検・調整……26
- 点火プラグの点検・清掃……27
- 燃料キャップの点検・清掃……27
- 燃料フィルタの点検……28
- 燃料パイプの点検……28
- マフラの清掃……28
- エアクリーナエレメントの洗浄……28
- シリンダフィンの清掃……29
- 長期格納のしかた……29
- 本機部……29
- エンジン部……29
- 使用者が行なってはいけない修理……30
- 使用済廃棄物の処分について……30

自走式傾斜刈機の不調と処置……31

- エンジン部……31
- 本機部……32

付表……33

- 主要諸元……33
- 付属品……33
- 消耗部品……34

▲安全に作業するために

必ず読んで
ください。

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で▲危険・▲警告・▲注意・重要・補足として、そのつど取上げています。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書および機械に貼付けている▲表示ラベルをよく読み理解してください。

- ▲表示ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損、紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品をかってに改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意をはらってください。



M-6215

作業前の注意

■機械を安全に使用するために、次の事項は必ず守ってください。

- 飛散物による事故防止のために、長袖の作業着、長ズボンを着用し、保護メガネ、保護帽、スネ当て、滑り止めのついた安全靴などの保護具を身につけてください。
- 飛散物による事故防止のため、事前に石やその他の異物は確実に取除き、移動できない障害物はその位置を明確にした目印をつけてください。
- 飛散防止カバーは外して使用すると事故を招くおそれがあるので、必ず装着し、ネジの締付けなどの点検をしてください。
- 飛散防止カバーは必ず指定の純正品を使用し、破れたり、欠損した場合はすぐ交換してください。
- 刈刃は必ず指定の純正品を使用し、損傷やネジの締付けを点検し、損傷を発見したらすぐ交換してください。
- 疲れているとき、身体の調子の悪いとき、飲酒をしたり薬物を服用したときは使用しないでください。
- 本機を他人に貸すときは、機械と一緒に取扱説明書を渡し、よく読んで正しい使い方をよく理解してから使用するよう指導してください。
- 心身機能の低下した高齢者及び子供には絶対運転させないでください。
- 排気ガスは有害です。換気の悪い場所(屋内、トンネル内など)での作業はしないこと。



安全に作業するために

作業前点検（日常点検）の実施

■運転の前には“運転前の点検”の項目の点検をしてください。

異常があれば直してから運転してください。

■点検・調整・整備・掃除・注油をするときはエンジンを必ず止めてください。

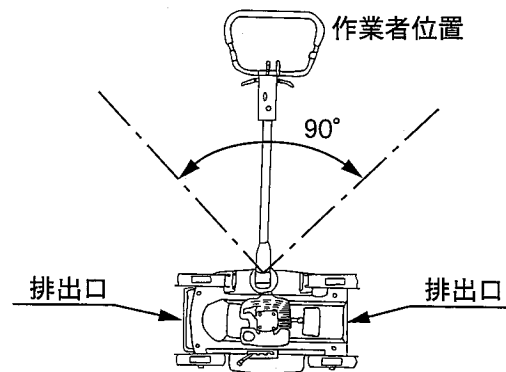
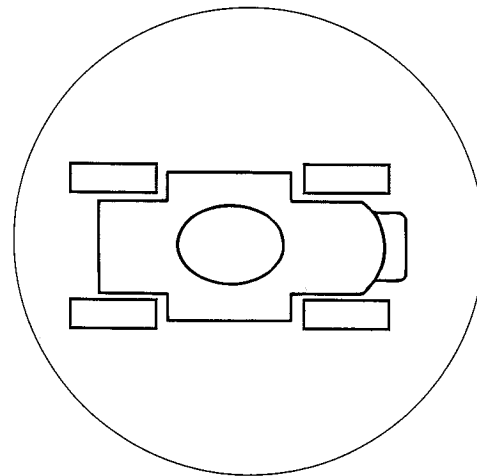
- エンジンメッシュカバー・マフラ排気管周辺にホコリ、屑がたまっていると火災の原因となります。きれいに取除いてください。
- オイルは指定のものを使ってください。
- 点検・調整などが終わったら外したカバー類は必ず取付けて作業を行ってください。
- 刈刃は確実に取付けられているか、損傷はないかを確認してから使用してください。
- 飛散防止カバーは確実に取付けられているか、破れや欠損がないか確認してから使用してください。
- 燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えていることを確認し、火気のない通気の良いところで行ってください。補給中に燃料をこぼしたときは、引火のおそれがありますのできれいにふき取ってください。



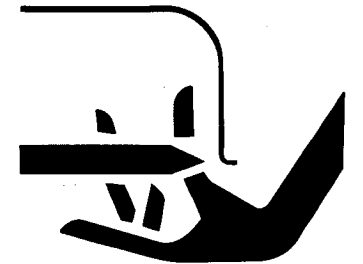
作業中の注意

■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは、人や動物等を周辺に近づけないでください。もし、近づいたら作業を停止してください。
- 漏れた燃料への引火防止のため、燃料を入れた場所より3m以上離れた所で、エンジンを始動すること。
- 運転中は刈刃や回転部に手足や体を近づけないでください。
- 機械の周囲は石などが飛散します。危険なので人を近づけないこと。
- 小石やその他の異物は飛散し、ケガをするおそれがあります。作業中に発見したら、すぐに取除いてください。
- 法面には境界線や測量用の杭を打ち込んでいることがあります。障害物はその位置を確認した後、目印をたてその場所は避けてください。障害物に刈刃が当たると機械が破損する場合があります。
- 作業者は、20°以上の斜面に立たないでください。
- 斜面で作業するときは、必ず足場をしっかりと確保し、転倒しないように足元を確認しながら作業してください。
- 斜面の作業では、機械の上(山)側に立って行なってください。下(谷)側での作業は、足を滑らせたり、転倒した時に回転する刈刃に巻き込まれるおそれがあります。
- 草刈り時、作業者は排出口側に立たないでください。石などが飛び出し、ケガをするおそれがあります。
- 草刈り中の作業中への合図は、鏡や笛で遠くから合図をし、エンジンを止めてから話をしてください。



- 作業している周辺に人家や車などがある場合は、防護シートなどでおおってから作業を行ってください。
- 移動するときや機械から離れるときは、必ずエンジンを止めてください。
- 刈刃部に空缶、針金、小石などがかみ込んだ場合は、必ずエンジンを停止し、刈刃の停止を確認してから取除いてください。そのとき、刈刃部に損傷がないかも調べてください。
- ヤケド防止のため、作業中・エンジン停止後15分はエンジン本体、マフラなどに触れないでください。
- 運転中は点火プラグやコードに触れないでください。感電するおそれがあります。
- 連続作業は、疲労のため事故の原因になります。1時間以上の連続作業は行なわないようにしてください。
- 機械に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じたときは、直ちに作業を中止して機械を修理してください。



M-6242

夜間及び雨や強い風のときは、作業は行なわないでください

- この機械は夜間作業に必要な箇所を照明するための作業灯が付けられませんので、安全のため夜間作業はしないでください。
- 落下するおそれがあるので、50°以上の斜面では作業は行なわないでください。
- 草がぬれていたり、雨天のときは草刈り作業をしないでください。足をすべらせて転倒し、機械に足が巻き込まれるおそれがあります。

作業終了後の注意

- エンジンが冷えるまで可燃物（燃料、枯れ草、ビニールなど）の近くに置かないこと。
- 目に飛散物が入ったときには
- 機械を使っている、「目の中に何か入ったかな?」と思う程度でも、目をこすったりしないで、すぐに眼科の診断を受けましょう。
- 本機の使用目的は法面の雑草刈用です。他に使用しないでください。

安全な点検・整備

- エンジンをかけたままでの点検・調整・整備・掃除・給油は危険です。エンジンを必ず止めて作業してください。
- 特にマフラやエアクリーナ部分の付着物に注意してください。
- エンジンに草、木の葉などをたい積させないでください。これら可燃物がたい積すると火災の原因になったり、機械を破損する場合があります。
- 各部の締付けネジのゆるみがないか、刈刃に損傷がないかを点検し、ネジのゆるみがあれば締付け、刈刃に損傷があった場合はメーカー指定の純正の刈刃と交換してください。刈刃の交換の際は必ず手袋を着用してください。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をお使いください。
- 点検・整備・掃除などが終わったら外したカバー類は必ず取付けて作業を行ってください。

安全に作業するために

安全な自動車輸送

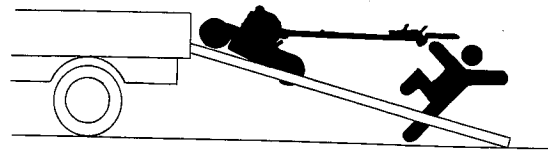
■積込み・積降しは自動車の駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

■あゆみ板を使用して積込み・積降しをする場合は、刈刃クラッチレバーを“切”にして行なってください。

■乗用車等の密閉空間になる状態で機械を運搬する場合は、燃料タンク内の燃料を完全に抜き取り、別に用意していた法で定められたタンクに移して運搬してください。

●あゆみ板を使用する場合は、フックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のない様に確実に掛けてください。また、あゆみ板はトラックの荷台高さの4倍以上の長さで、すべり止めがあり、強度がじゅうぶんある基準に合ったものを使ってください。

●トラックやトレーラなどに積んで走るときは、機体が動かないように全体をロープで固定してください。



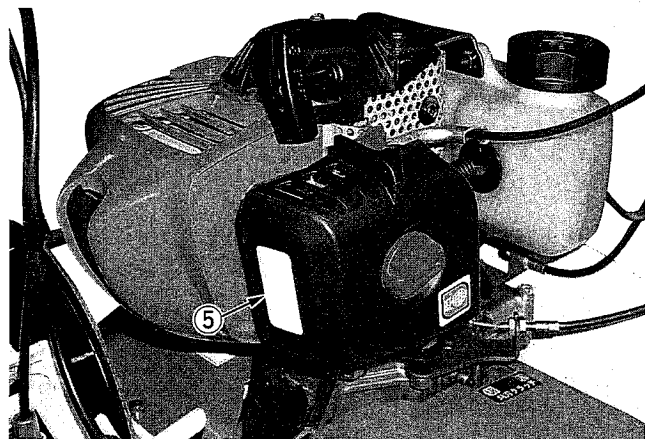
2. ▲表示ラベルの種類と貼付け位置

①品番 KT L6241-5114-1

注意	作業前
	1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。 2. エンジンを始動するときは刈刃クラッチを『切』にすること。 3. 屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので、換気すること。 4. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、エンジンを必ず止めること。 5. 安全カバーを外した場合は、必ず元の状態に戻してから機械を使用すること。
	移動・作業中
	1. 発進及び草刈作業時は、周囲の安全を確かめ、機械の周囲に人を近づけないこと。 2. 移動走行をするときは、刈刃クラッチを『切』にすること。 3. 車で運搬するときは、機体が動かないように全体をロープなどで固定すること。 4. 作業中は目にごみが入ることがあるので、必ず防護メガネを着用すること。 5. 落下事故防止のため50°以上の傾斜地では作業しないこと。
	駐・停車
	1. 駐車する場合は、平坦で機械が安定する場所を選び、進行方向レバーを走行位置に入れること。 2. 機械から離れるときは、エンジンを必ず止めること。

③品番 KT L6271-6116-2

警告	火気厳禁 給油時にはエンジン停止。 こぼれた燃料は必ずふきとること。	排気ガス注意 室内や換気の悪い場所では運転禁止。 排気ガスは有毒です。	マフラ高温注意 マフラやその付近に 触れないこと。 ヤケドをします。	混合油 50:1 ガソリン オイル FC級以上
-----------	---	--	--	---



②品番 KT L6206-5115-1

危険	回転刃に接触すると、 ケガをするので、手や 足を近づけないこと。
-----------	--

④品番 KT L6241-5123-1

警告	この下のエンジンメッシュカバーに 付着したごみを常に取除いてく ださい。ごみがたまると火災の 危険があります。
-----------	--

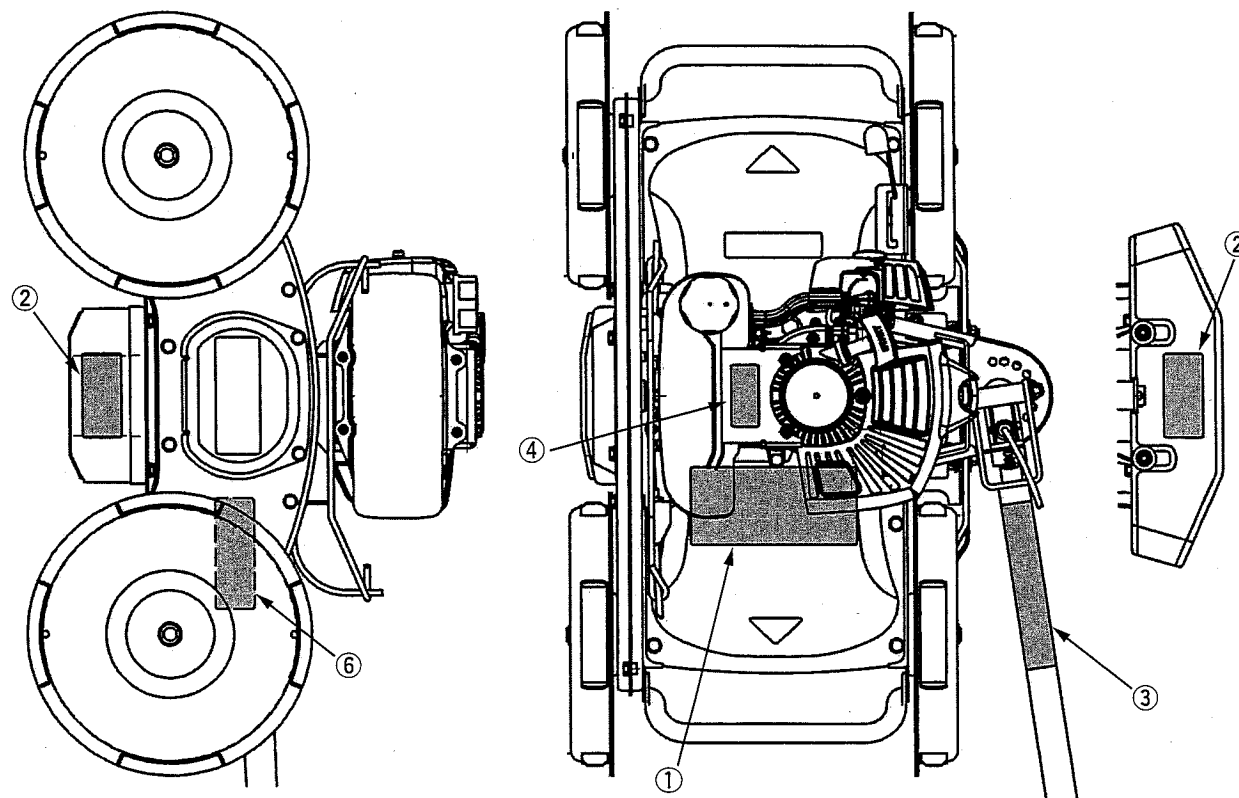
⑤品番 5604-9119-0

注意	ご使用になる前に必ず 「取扱説明書」をお読みください。
-----------	--------------------------------

⑥品番 KT L6201-5119-3

危険	石などが飛散しケガをするので、作業中は機械の 周囲に人を近づけないこと。
-----------	---

必ず読んで
ください。



3. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは、いつもきれいにしておいて傷つけないようにしてください。

もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布でふいてください。

シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にご相談ください。

その際 (1)販売型式名と製造番号

(2)エンジン型式名とエンジン番号

をあわせてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらで相談ください。



警告

*機械の改造は危険ですので、改造しないでください。

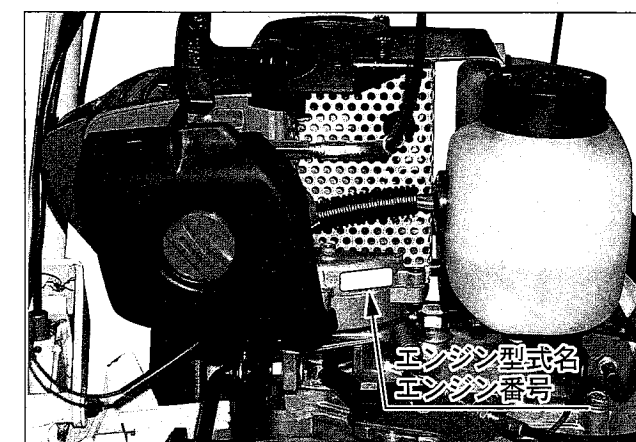
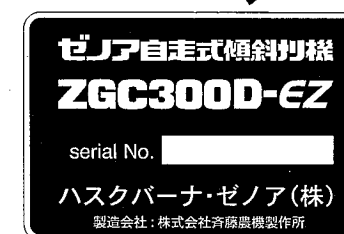
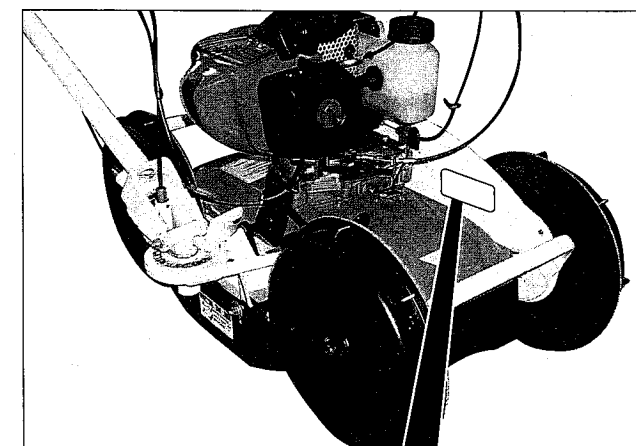
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

■補修用部品の供給年限について

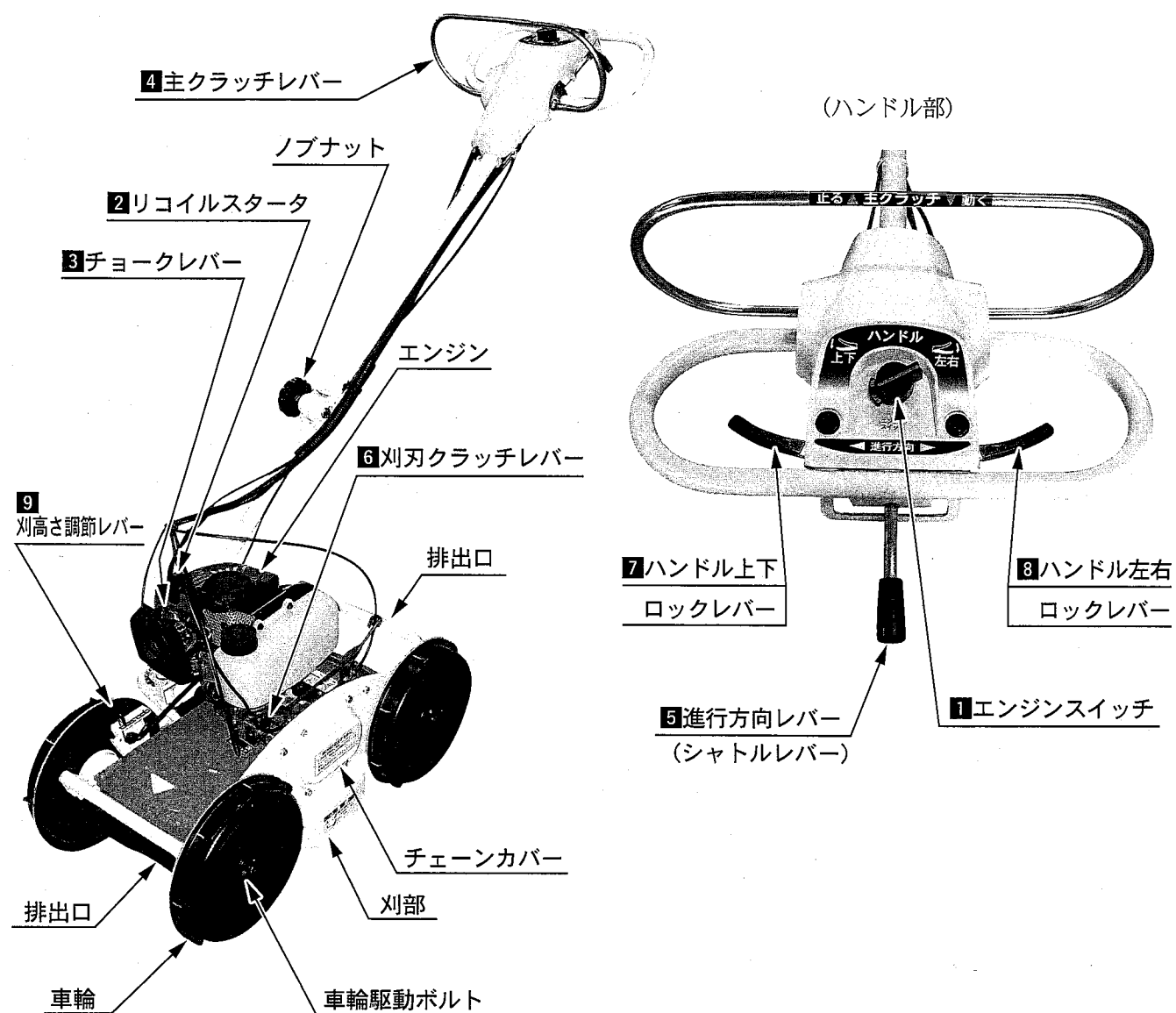
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後8年といたします。

但し、供給年限内であっても特殊部品につきましては、期限などについてご相談させていただく場合もあります。

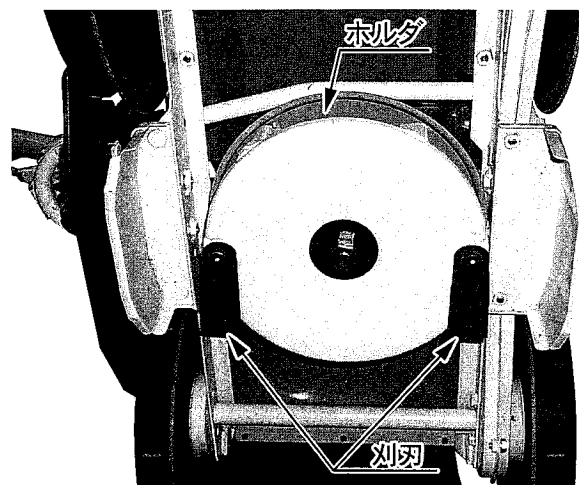
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。



各部の名称



(草刈作業部)



	参照ページ
1 エンジンスイッチ	3
2 リコイルスタータ	3
3 チョークレバー	3
4 主クラッチレバー	3
5 進行方向レバー (シャトルレバー)	4
6 刈刃クラッチレバー	4
7 ハンドル上下ロックレバー	5
8 ハンドル左右ロックレバー	5
9 刈高さ調節レバー	5

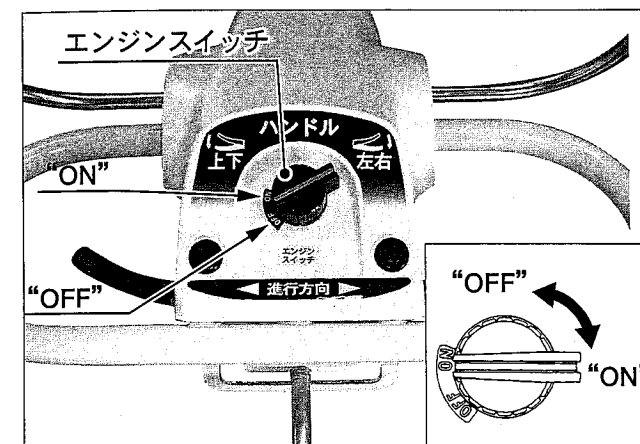
諸装置の説明

1 エンジンスイッチ

エンジンの運転、停止を切換えるスイッチです。

“ON” エンジン始動位置

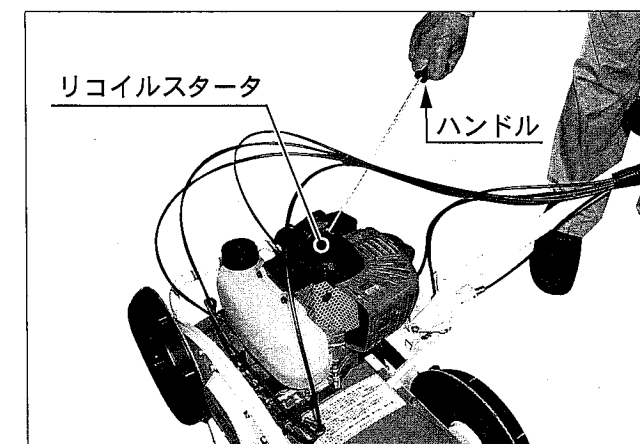
“OFF” エンジン停止位置



2 リコイルスタータ

エンジンを始動させるためのものです。

エンジン始動のとき、リコイルスタータのハンドルを素早く引っ張ってください。

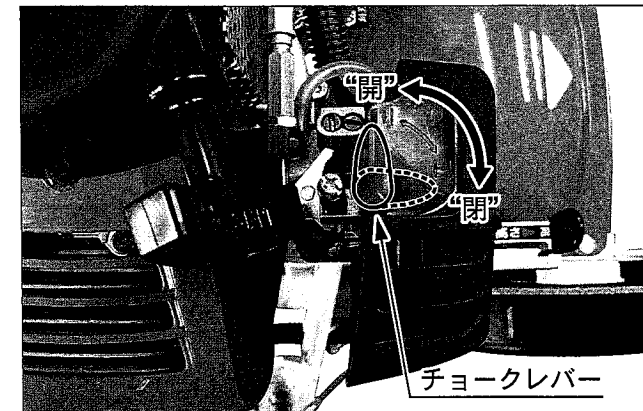


3 チョークレバー

エンジンに入る空気の量を調節するレバーです。

エンジン “始動時” “閉”へ

エンジン “始動後” “開”へ



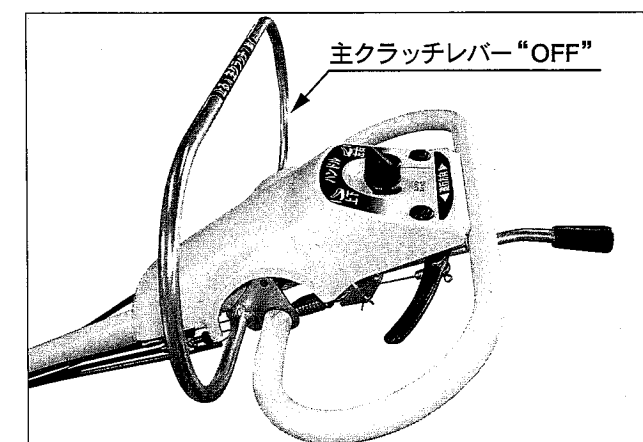
補 足

* エンジンが暖まっているときは、チョークレバーはそのまま“開”位置で始動してください。

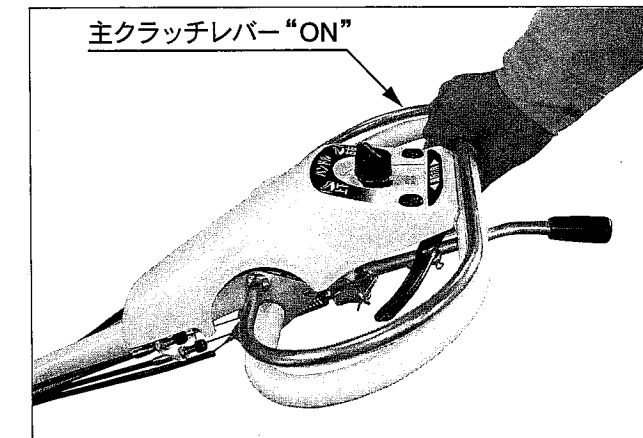
4 主クラッチレバー

エンジンの回転をコントロールするレバーです。

“OFF” レバーがバネの力で戻っている位置
エンジンアイドリング回転位置

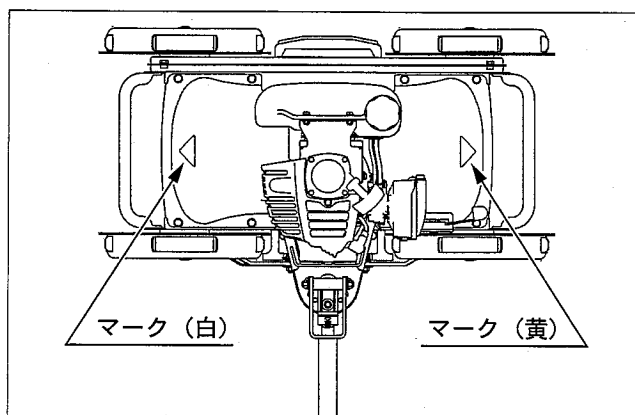
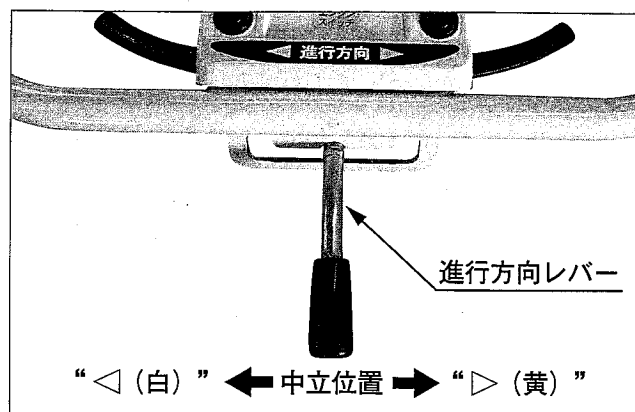


“ON” レバーを握ってハンドルに密着している位置
エンジン高速回転位置



5 進行方向レバー (シャトルレバー)

進行方向を決めるレバーです。

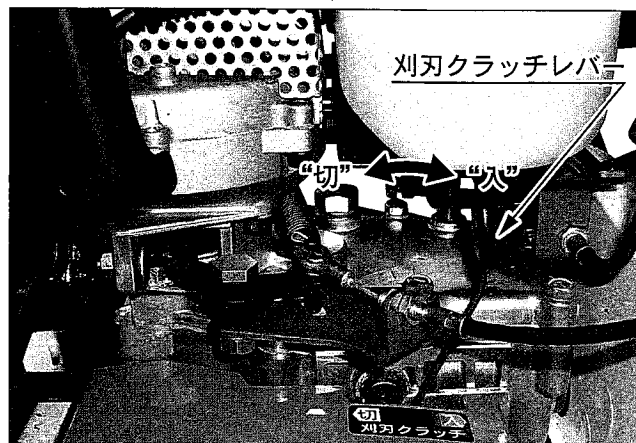


レバー位置が“◁ (白)”または“▷ (黄)”位置で主クラッチレバーを“ON”にすると、機体の“◁ (白)”または“▷ (黄)”マークの指示された方向に走行します。主クラッチレバー“ON”の位置でも切換え操作は可能です。

エンジンを止めて移動するときは中立位置にしてください。

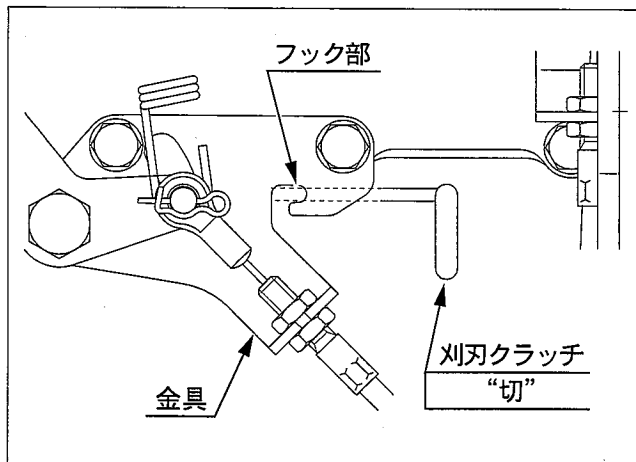
6 刈刃クラッチレバー

刈刃への動力伝達を“入”“切”するレバーです。



レバーを“入”にして主クラッチレバーを“ON”にすると、刈刃は回ります。

レバーを“切”にすると主クラッチレバーを“ON”にしても、刈刃は回りません。“切”の位置では、レバーを金具のフック部にかけ、レバーを固定してください。



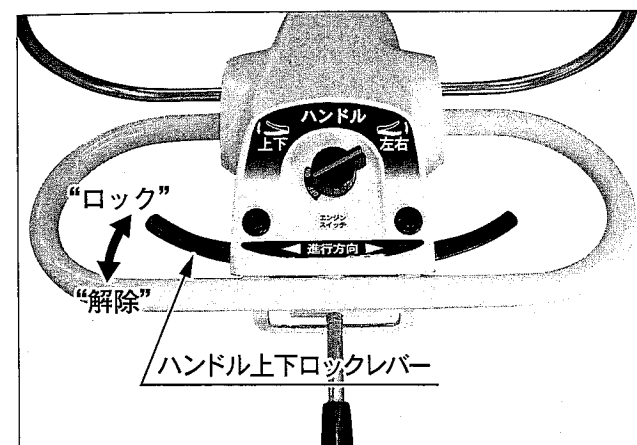
重要

※ 刈刃クラッチレバーの切換えは必ず主クラッチレバーが“OFF”の位置で行なってください。“ON”の位置で行なうと、機械の故障につながるおそれがあります。

7 ハンドル上下ロックレバー

ハンドルの上下高さ調節をするレバーです。

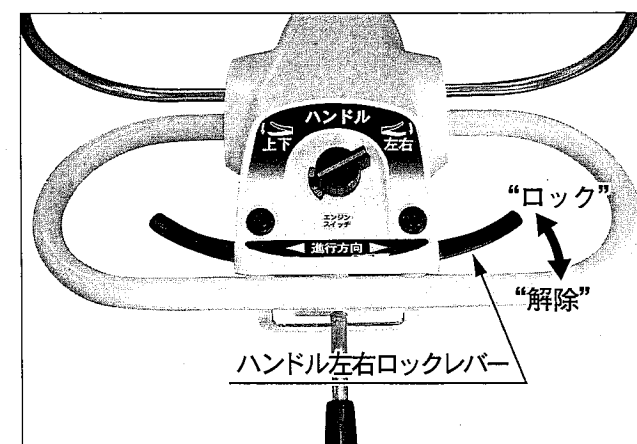
レバーを握るとロックが外れ、ハンドルの上下高さ調節ができます。



8 ハンドル左右ロックレバー

ハンドルの左右位置調節をするレバーです。

レバーを握るとロックが外れ、ハンドルの左右位置調節ができます。

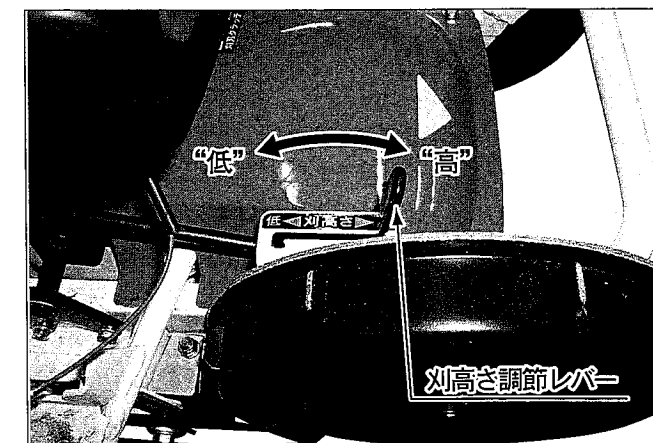


9 刈高さ調節レバー

地面からの刈刃高さを調節 (2段階) するレバーです。

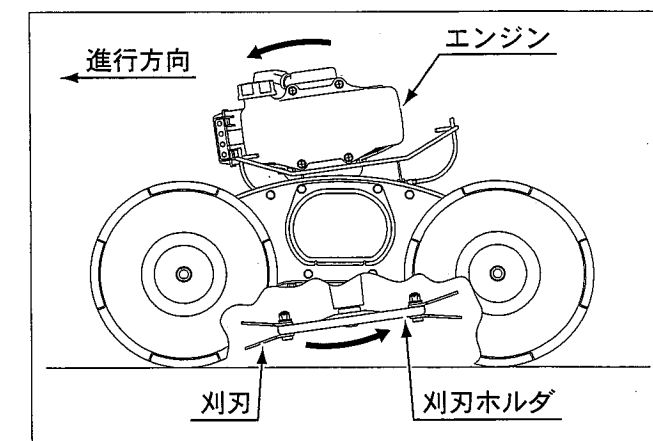
高：刈刃位置が高い …… 草丈を長く刈る。

↑
低：刈刃位置が低い …… 草丈を短く刈る。



補足

※ 刈高さを“低”の位置にした場合、走行時にエンジンが進行方向に傾き、それによって刈刃ホルダが反対方向に傾いて、刈刃の位置が低くなります。



運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。

(点検・調整方法の詳細は、P20 “メンテナンス”の項を参照。)

！ 警告

- *必ずエンジンを停止し、冷えてから作業をしてください。
- *燃料補給中は火気厳禁です。
- *取外したカバー類は、必ず取付けてから作業をしてください。

！ 注意

- *運転前に日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
- *使用前には必ず燃料を規定量、給油してください。
- *燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- *エンジンカバー内やメッシュカバー、マフラ周辺部にゴミがたまっていると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
- *刈刃の点検時は刃先に注意してください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

◆機械の回りを歩いて

- (1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
- (2)機体各部の変形や損傷がないか点検します。
- (3)油もれがないか点検します。
- (4)機体各部に枯葉などがたまっていないか点検します。

日常点検項目

＜ここを＞	→ ＜こうする＞		参 照 ページ
燃 料	*作業に必要な燃料があるか。	*潤滑油混合ガソリンを補給する。	7
エアクリーナ	*エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっているか。	*清掃または交換する。	7
メッシュカバー	*メッシュカバーの目詰まりはないか。	*付着しているほこり・ゴミを取除く。	8
マフラ周辺部	*ゴミがたまっていないか。	*清掃する。	8
飛散防止カバー	*破れ、欠損、変形がないか。 *作動不良がないか（作業側）。	*交換する。 *清掃または修理する。	8
刈刃および刈刃周辺部	*刈刃、刈刃ボルト、爪付きザガネの変形、割れ、摩耗がないか。 *ホルダの変形、亀裂がないか。 *ナットのゆるみがないか。	*交換する。 *交換する。 *締付ける、または交換する。	9
ブレーキワイヤ	*ブレーキワイヤのゆるみはないか。	*ブレーキワイヤを調整する。	10

■燃料の点検・補給

！ 警告

- *燃料は非常に引火しやすいため、取扱いを誤ると火災事故の原因となります。燃料の混合や給油時は必ず火気を遠ざけ、タバコは吸わないでください。
- *作業中に燃料を補給する場合は給油前に必ずエンジンを停止し、冷えてから行なってください。
- *キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふき取ってください。

燃料は、最寄のガソリンスタンドで「空冷2サイクルエンジン用混合ガソリン」をお求めになるか、自動車用無鉛ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルを下記割合で混合容器に入れ、容器を振ってよく混ぜ合わせたものを使用してください。

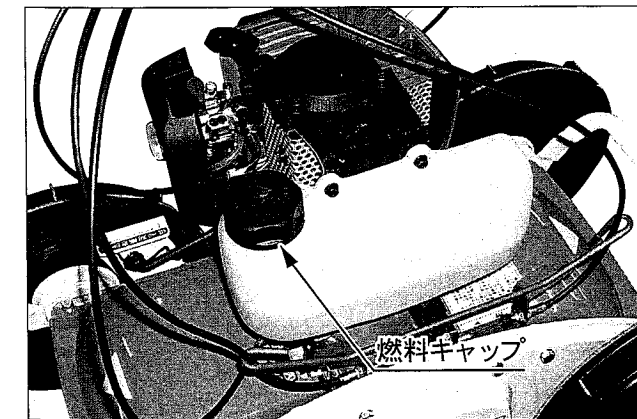
[混合比]

- ゼノア純正2サイクルオイル（FC級以上）使用時
50：1（ガソリン1ℓに対してオイル20ml）

補 足

*4サイクルエンジン用オイルや水などの異物が混入したり、長期間日光にさらされた燃料などはお使いにならないでください。エンジン始動不良や故障の原因となります。

- ①燃料キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取除いてください。
- ②燃料キャップを取外し、少しずつ給油してください。
- ③給油が終わったら、燃料キャップを確実に締付けてください。



重 要

- *燃料は給油口いっぱいまで給油しないでください。燃料を入れ過ぎると燃料キャップを締付けたとき、燃料があふれるおそれがあります。
- *給油するときは、機体を水平な場所において行なってください。
- *ガソリンのみを使用すると、エンジンが焼きつきを起こしますので、絶対にしないでください。

*ラベルに100：1など、50：1より薄い混合比率が記載されているオイルを使用する場合でも、50：1の混合比率でご使用ください。

50：1より薄い混合比率で使用した場合、正常に始動しなかったり、エンジン故障の原因となります。

■エアクリーナの清掃

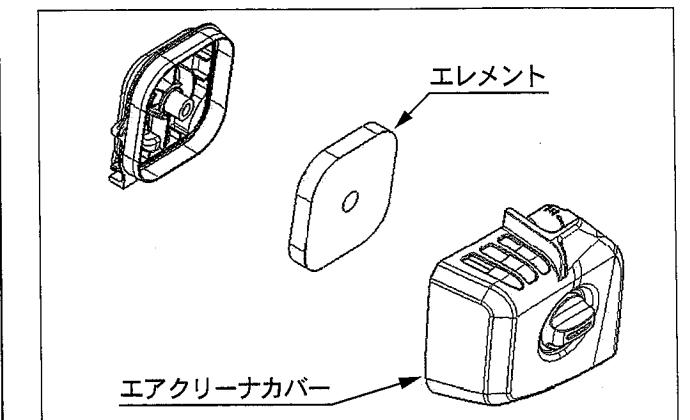
重 要

*エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

*エアクリーナエレメントを外して運転したり、破損または1年以上経過したエレメントを付けて運転を続けるとエンジントラブルの原因となります。

◆エアクリーナエレメントの清掃

エアクリーナカバーを取外して内部のゴミを取除いてください。エアクリーナエレメントがひどく汚れている場合は、白灯油でいねいに洗い、エンジンオイルに浸して片手で固く絞ってから元通り取付けてください（P28 “エアクリーナエレメントの洗浄”の項参照）。エレメントが破損したり1年以上経過した場合は、新品と交換してください。



■メッシュカバー、マフラ周辺部の点検・清掃



警告

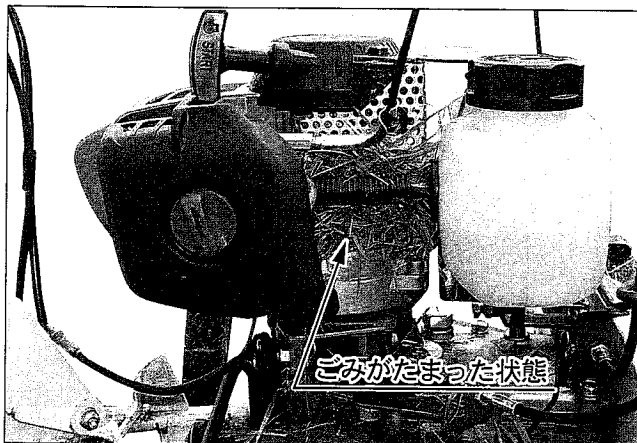
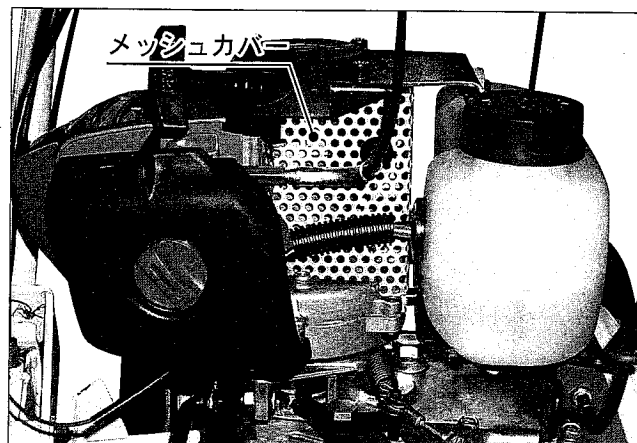
*メッシュカバー部にゴミがたまると、エンジンがオーバーヒートし、火災の危険があります。



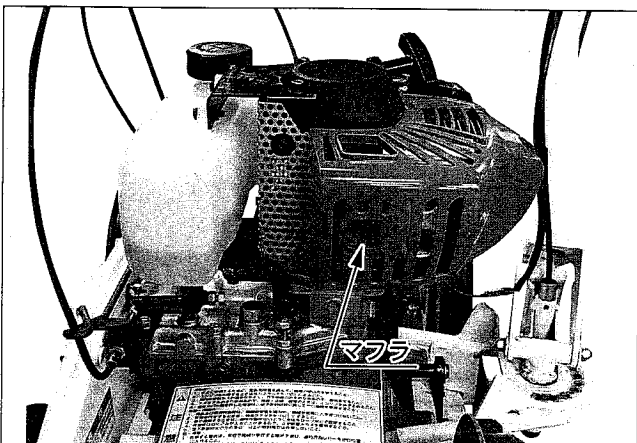
注意

*ヤケド防止のため、エンジン停止後じゅうぶんに冷えてから作業をしてください。

●メッシュカバーに付着したゴミを取除いてください。



●マフラ周辺部のゴミを取除いてください。



■飛散防止カバーの点検・清掃



危険

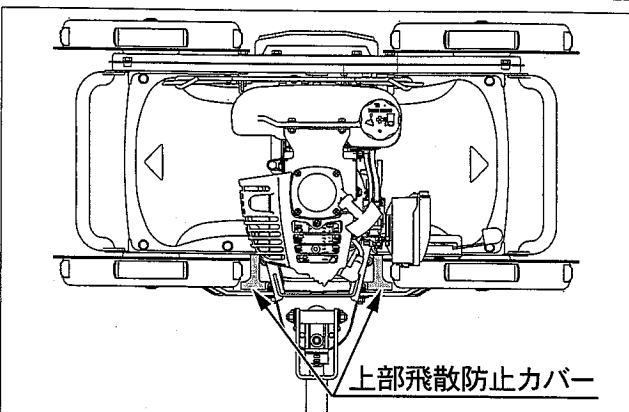
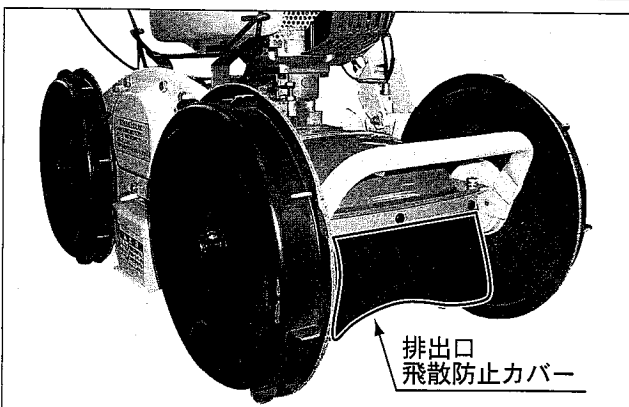
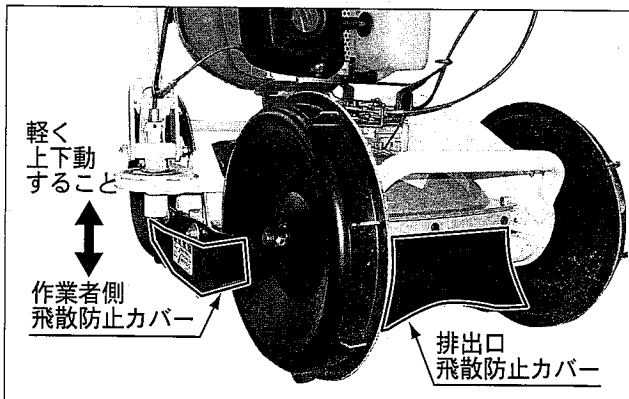
*飛散防止カバーに損傷があると、飛散物により事故を招くおそれがあります。異常がある場合はすぐに交換してください。

*作業側側の飛散防止カバーは障害物を避けるため、自動的に上下する構造になっています。カバー周囲のゴミを取除き、カバーが軽く上下動することを確認してから、作業を行ってください。カバーが正常に作動しない状態で作業を行なうと、石などが飛散し、事故を招くおそれがあります。

点検

破れ、欠損、変形、作動不良はないか、取付けボルトにゆるみはないか点検してください。

異常がある場合は交換してください。



◆清掃

作業側飛散防止カバーの周囲のゴミを取除き、カバーが軽く上下動することを確認してください。

■刈刃および刈刃周辺部の点検



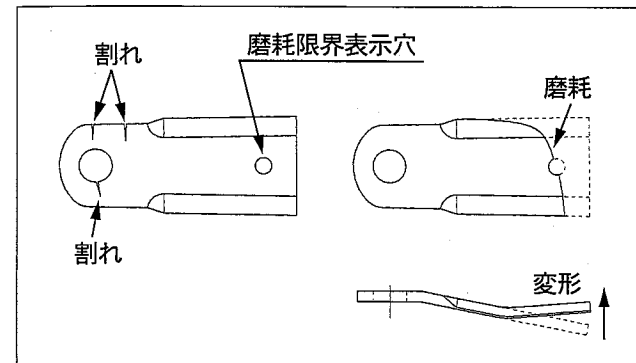
危険

*刈刃や刈刃ボルト、爪付きザガネに損傷があると、作業中に飛散し、事故を招くおそれがあります。異常があれば放置せず、すぐに対処してください。

◆刈刃の点検

変形、割れ、摩耗がないか点検してください。

図のように異常な状態になった場合は交換してください。

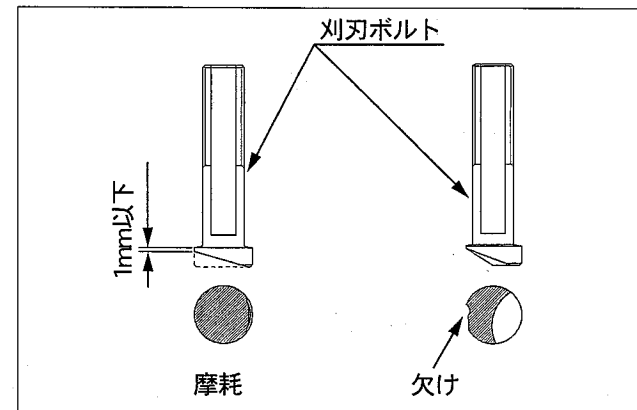
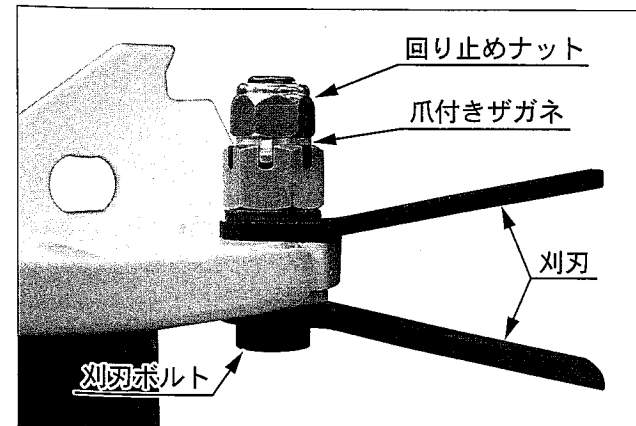


重要

*刈刃先端の穴は摩耗の限界を表しています。この穴がなくなる前に、刈刃を交換してください。

◆刈刃ボルト、爪付きザガネ、回り止めナットの点検
欠けや摩耗、折損、亀裂、ゆるみがないか点検してください。

刈刃ボルトは図のような場合は交換してください。

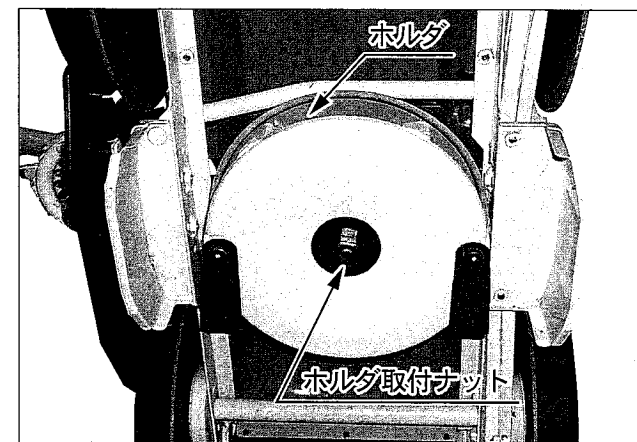


◆ホルダの点検

変形、亀裂がないか点検してください。異常がある場合は、交換してください。

◆ホルダ取付ナットの点検

ゆるみがないか点検してください。



重要

*ホルダ取付ナットは左ネジになっています。

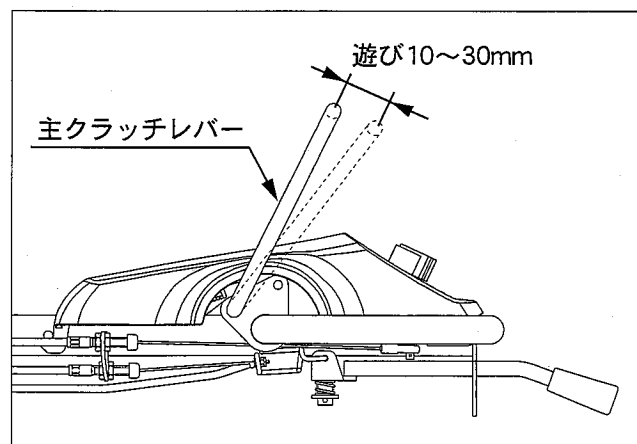
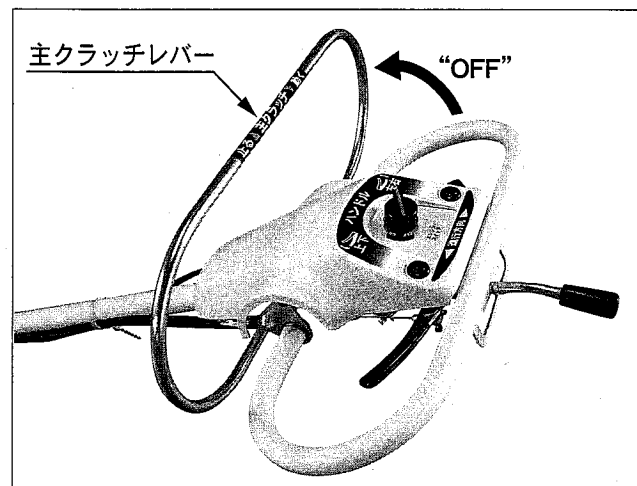
■ブレーキワイヤの点検 重要

※主クラッチレバーが“OFF”の位置では、ブレーキワイヤに遊びを設けてあります。

※ブレーキワイヤが調整不良の状態で使用が続けると、機械の故障につながるおそれがあります。

主クラッチレバーを“OFF”にしたとき、レバーの遊びが上部で10～30mmが適正です。それ以外のときは、ブレーキワイヤを調整をしてください。

(P27 “ブレーキワイヤの調整”の項参照)



エンジンの始動と停止

⚠ 注意

※この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。

※機体各部に貼ってある▲表示ラベルの内容を必ずお読みください。

※周囲の人に合図をし、安全を確認してからエンジンを始動してください。

※エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを“OFF”，刈刃クラッチレバーを“切”の位置にして、始動してください。

※エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気が悪い納屋や倉庫でエンジンをかけないでください。

※近くに人を近づけないでください。

※ヤケド防止のため、運転中・エンジン停止後15分はエンジン本体、マフラなどに触れないでください。

※運転中は点火プラグやプラグコードに触れないでください。感電するおそれがあります。

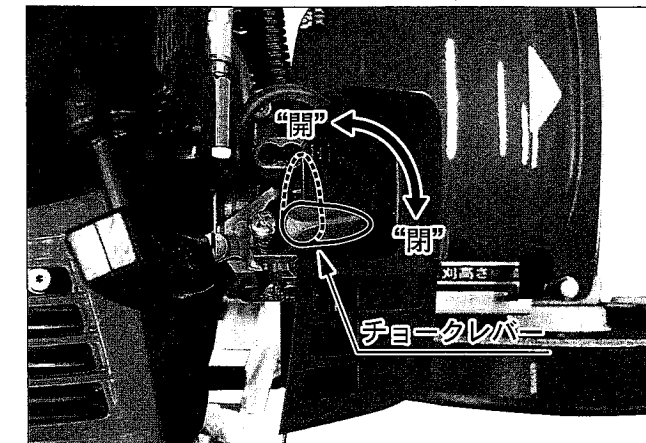
始動のしかた

1 各種レバー位置を確認する。

①主クラッチレバーが“OFF”，刈刃クラッチレバーが“切”の位置にあることを確認してください。

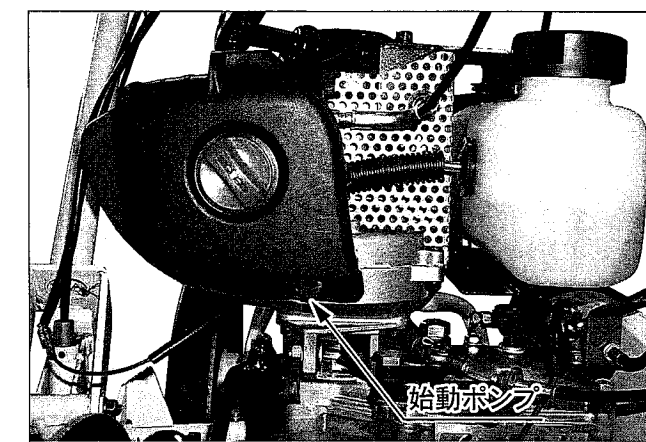


②チョークレバーを“閉”にします。(エンジンが暖まっているときは“開”のままで始動します。)



2 始動ポンプを操作する。

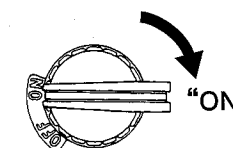
始動ポンプを燃料が透明パイプに流れ出すまで指で数回押してください。



燃料がじゅうぶん燃料タンクに残っている状態で、エンジン停止後間を置かずに再始動する場合は、始動ポンプを押さなくてもかまいません。

3 エンジンスイッチを操作する。

エンジンスイッチを“ON”の位置にします。

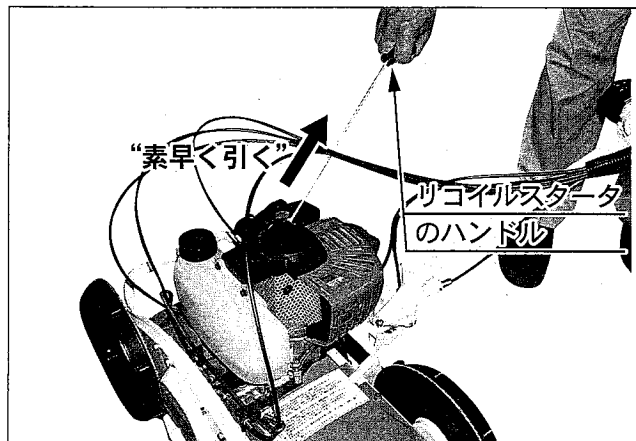


4 リコイルスタータのハンドルを引く。

！ 注意

* リコイルスタータのハンドルを引く方向に人がいないか、また突起物や障害物がないかを確認して始動してください。

- ① リコイルスタータのハンドルを握って素早く引いてください。スタータに無理をかけないよう、ロープは最後まで引き切らずにハンドルを持ったまま戻してください。



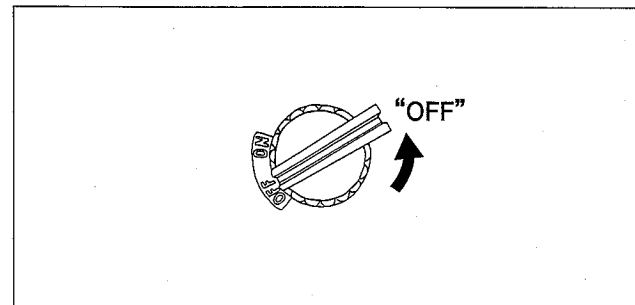
- ② エンジンが始動したら、チョークレバーを“開”位置にし、しばらく暖機運転してください。

停止のしかた

！ 注意

* 緊急時は間を置かずにエンジンの停止操作をしてください。

- ① 主クラッチレバーを“OFF”の位置にしてください。
- ② エンジンスイッチを“OFF”の位置にすると、エンジンは止まります。



重要

* 緊急時を除いて、高速回転のままでエンジンを停止しないでください。

* 作業中は、主クラッチレバーを“OFF”にした後、刈刃クラッチレバーを“切”にしてからエンジンスイッチを“OFF”にしてください。

自走式傾斜刈機の運転

移動走行について

！ 注意

* この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。

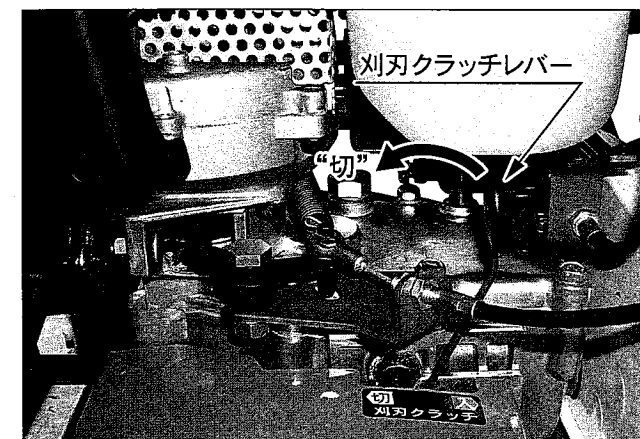
* 機体に貼ってある▲表示ラベルの内容を必ずお読みください。

■ 走行のしかた

！ 注意

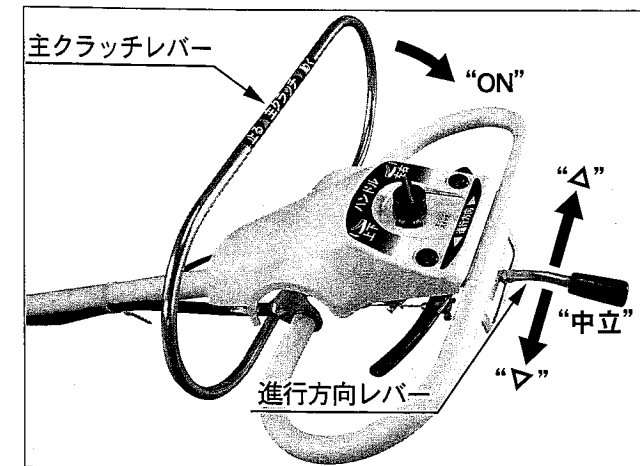
* 周囲の人に合図をし、安全を確認してから走行操作を行ってください。

* 移動は刈刃クラッチレバーが“切”の位置で行ってください。



- ① エンジンを始動してください。(P11 “始動のしかた”の項参照)

- ② 進行方向レバーを進みたい方向に入れ、主クラッチレバーを“ON”にすると発進します。

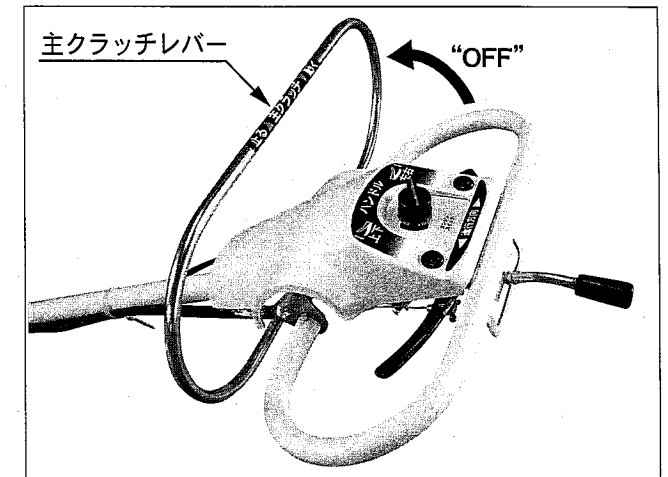


■ 停車のしかた

！ 注意

* 停車する場合は、平たんな安定した場所にしてください。

- ① 主クラッチレバーを“OFF”の位置にします。



- ② エンジンを停止させます。(P12 “停止のしかた”の項参照)

■ エンジンを止めて移動する場合

エンジンを止めて移動する場合は進行方向レバーを中立位置にし、ハンドルを押す又は引いて移動してください。

自動車への積込み・積降し

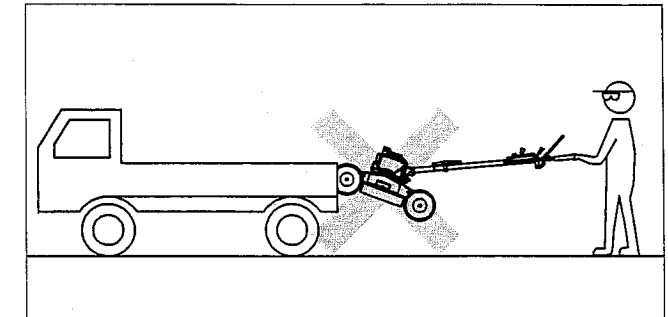
！ 注意

* 積込み・積降しは自動車の駐車ブレーキを確実に掛けてください。

* 自動車への積込み・積降しは、平地で行ってください。

重要

* トラックなどの荷台から直接地面に落下させると、衝撃により機械が損傷・変形します。

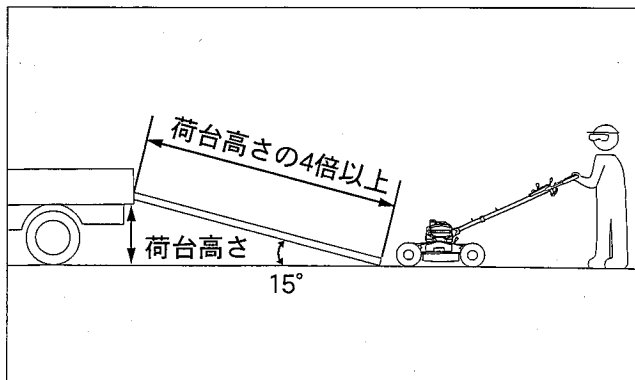


■あゆみ板を使用する場合の積込み・積降し



注意

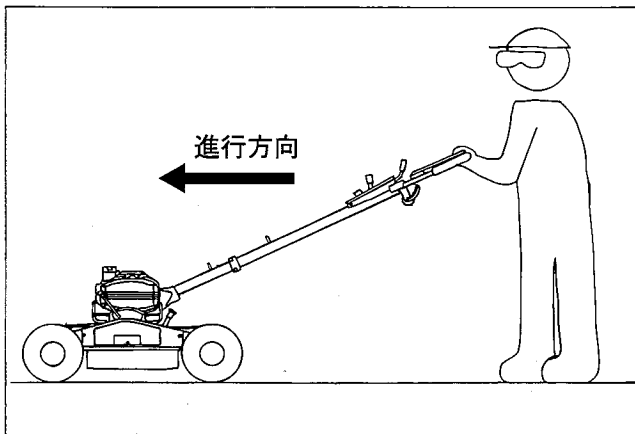
- *あゆみ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、あゆみ板は、荷台高さの4倍以上の長さで、走行面が平面で（はしご状でない）、すべり止めのある、基準にあったものを使用してください。
- *刈刃クラッチレバーは必ず“切”にしてください。
- *あゆみ板は安定していることを確認してください。
- *トラックへの積込み・積降しの際、あゆみ板の上で進行方向レバー、ハンドル上下ロックレバー、ハンドル左右ロックレバーは絶対に操作しないでください。転落するおそれがあります。



あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	300mm以上のもの
縁の高さ	50mm以下のもの
数量	2枚
強度	1枚が200kg以上の重量に耐え得るもの
形状	走行面が平面ですべり止めのあるもの

- ①刈高さ調節レバーを“高”にします。
- ②作業者が進行方向の後側に立つように、ハンドル位置を調節します。



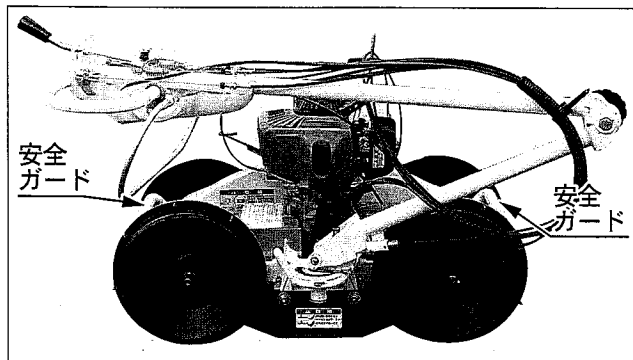
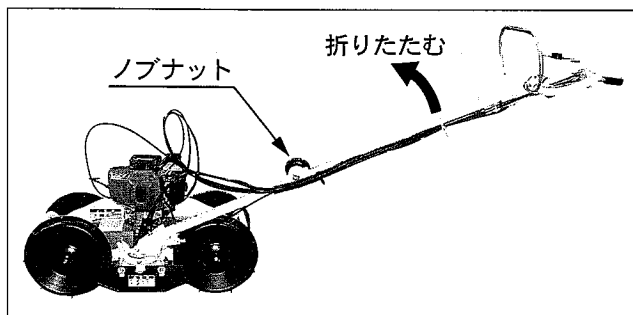
- ③刈刃クラッチレバーを“切”にします。
- ④エンジンを始動します。
- ⑤主クラッチレバーを“ON”にして本機を走行し、積込みます。
積込みは前進（進行方向に対し、機械が前で作業者が後）で、積降しは後進（進行方向に対し、作業者が前で機械が後）で行なってください。

■乗用車への積込み・積降し



注意

- *積込み・積降しは2人以上で行ってください。
- *乗用車等の密閉空間になる状態で機械を運搬する場合は、燃料タンク内の燃料を完全に抜き取ってから積込んでください。
- *燃料は、別に用意していた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。
- *ハンドルを折りたたむ際は、手や体の一部などをはさみ込まないように、じゅうぶん注意してください。
- ①エンジンを停止し、刈高さ調節レバーを“高”にします。
- ②ハンドル上下ロックレバー、ハンドル左右ロックレバーでハンドルの位置を調節します。
- ③ノブナットをゆるめ、ハンドルを折りたたみます。折りたたみ後、ノブナットを確実に締付け、ハンドルを固定します。
- ④安全ガード部を持ち、自動車に積込み・積降しを行います。



重要

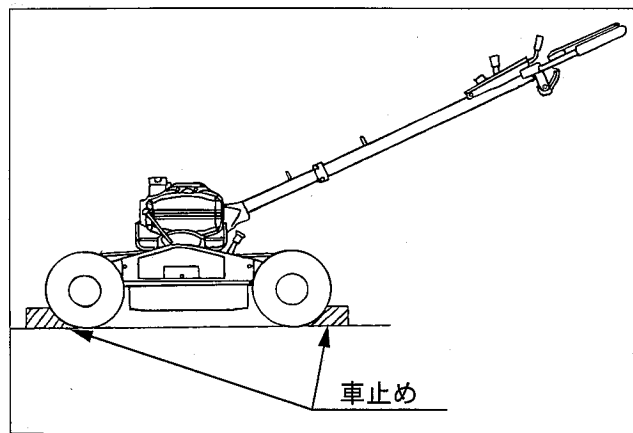
- *ハンドルを折りたたむときは、ケーブルなどが他の部品に引っかからないか注意しながら、ゆっくりと操作してください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- *ハンドルを折りたたむときは、部品同士が当たらないよう、また自動車の内装と干渉しないようにハンドル位置を調整してください。

■輸送時の固定のしかた



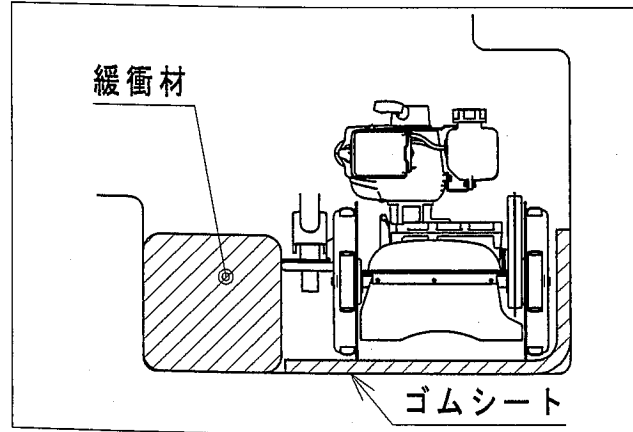
注意

- *自動車の上ではエンジンを停止し、進行方向レバーを“◁(白)”か“▷(黄)”の位置に入れてください。
- *車止めをして、ロープなどでしっかりと固定してください。



重要

- *ロープを掛けるときは、各ワイヤを挟まないようにしてください。
- *機体が固定されていることを確認してから輸送してください。
- *乗用車のトランクなどに積込む場合は、ゴムシートや緩衝材などを機体と乗用車の間に入れ、機体が動かないよう固定してください。

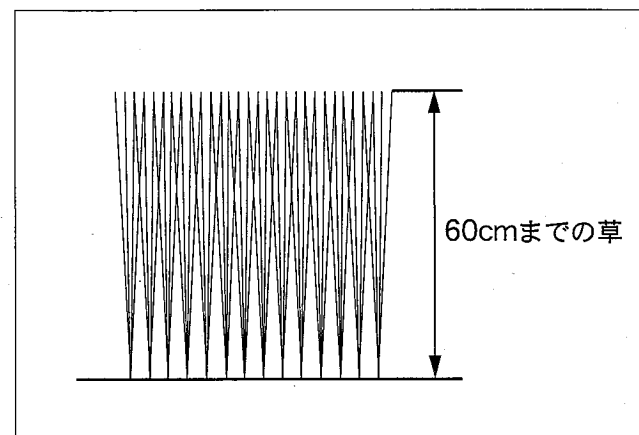


上手な草刈り作業のしかた

作業ができる草丈と法面角度

■草丈の条件

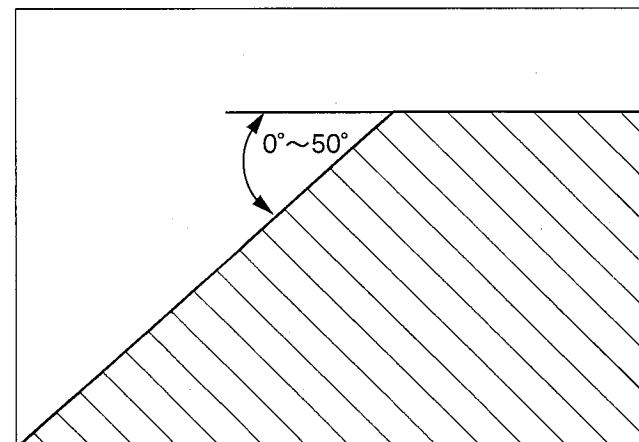
草丈は60cmまで



刈跡が悪い時は、2度刈りをしてください。
木は刈れません。

■法面の角度

角度は0°～50°まで



補 足

* 地面が柔らかいと、タイヤが沈みスリップして、作業できないことがあります。作業前に地面の状態を確認してください。

草刈り作業のしかた

！ 危険

- * 傾斜面での作業は、必ず足場をしっかりと確保し、機械の上(山)側に立って行なってください。下(谷)側での作業は、緊急時に回転する刈刃に巻き込まれるおそれがあります。
- * 作業者は20°以上の斜面に立たないでください。足を滑らせ、回転する刈刃に巻き込まれるおそれがあります。
- * 作業中には、刈刃や回転部に、手足や体を絶対に近づけないようにしてください。
- * 機械の周囲に人を近づけないでください。飛散物が当たりケガをするおそれがあります。

！ 警告

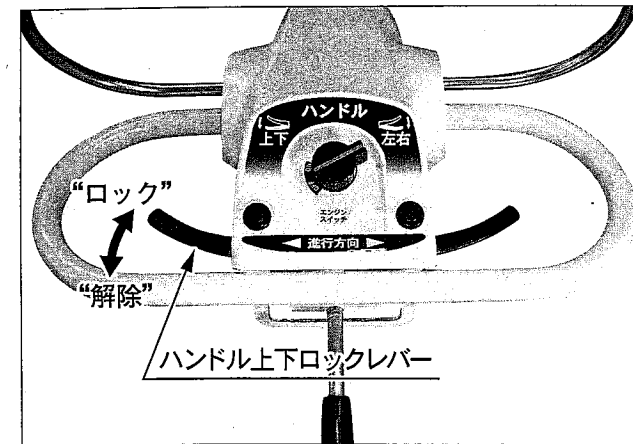
- * 落下するおそれがあるので、50°以上の斜面では作業は行なわないでください。
- * 降雨時または、雨上がり後や露の多いときは、すべりやすいので、地面がかわいてから作業してください。
- * 夜間作業はしないでください。
- * 異常音、異常振動、不具合が発生したときは、エンジンを必ず停止してください。
- * 外装品(安全カバー)を取外しての作業は絶対にしないでください。
- * 小石やその他の異物は飛散しケガをするおそれがあります。作業前に取除いてください。障害物はその位置を確認した後目印を立てて接近しないよう注意してください。
- * 作業中は必ず保護メガネやスネ当てなどの保護具を着用してください。
- * 斜面を上り又は下りで走行中に進行方向レバーを中立位置に入れないでください。ブレーキが効かず暴走するおそれがあります。

！ 注意

- * エンジンを始動したり、各クラッチを入れるときは、共同作業者に合図して、安全を確認してください。
- * 作業を終えてシートを機械にかけるときは、火災の原因になることがありますので、エンジン、マフラがじゅうぶん冷えてからにしてください。

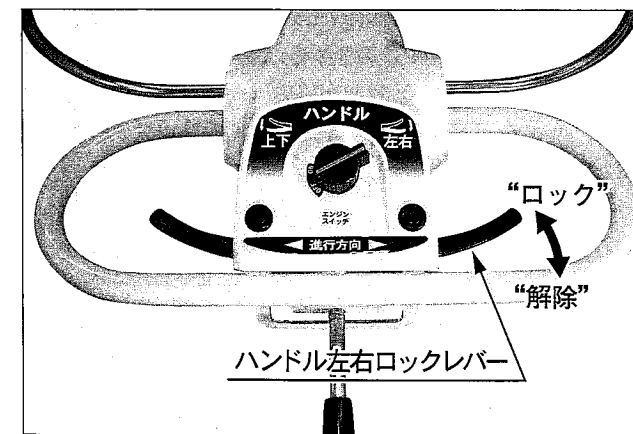
■ハンドル上下高さ調節

ハンドルは上下高さを5段階で調節することができます。ハンドル上下ロックレバーを引き、ハンドル位置を作業状態に合わせて調節してください。調節後は、確実にロックされていることを確認してください。



■ハンドル左右回動調節

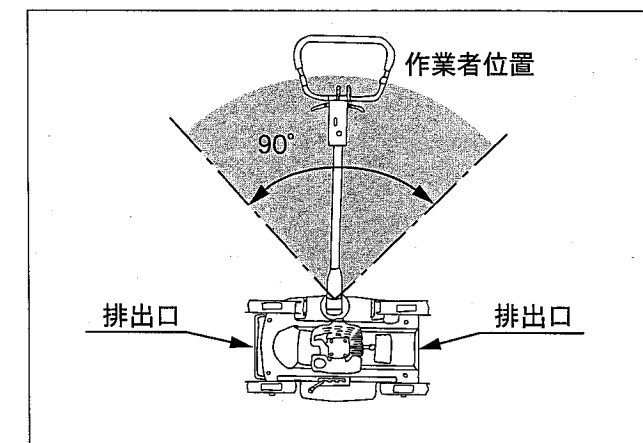
ハンドルは支点部を中心に左右約200°の範囲で回動することができます。ハンドル左右ロックレバーを引き、ハンドル位置を作業状態に合わせて調節してください。調節後は、確実にロックされていることを確認してください。



！ 危険

* 草刈り時、作業者は排出口側に立たないでください。石などが飛び出しケガをするおそれがあります。

作業者は図示の位置内で草刈り作業をしてください。

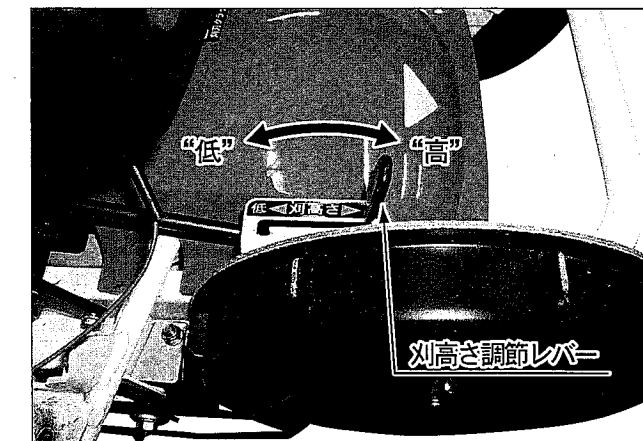


■刈高さ調節

！ 警告

* 調節はエンジンを停止するか、主クラッチレバーが“OFF”の位置で行なってください。

刈高さは2段階に調節することができます。草のボリューム、地形の凹凸など作業状態に合わせて調節してください。

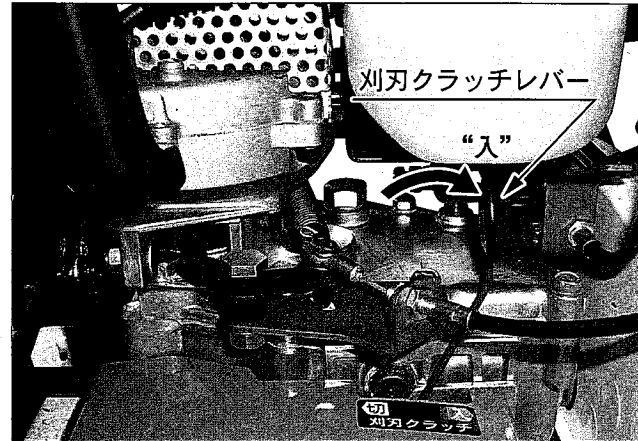


■基本操作

！ 注意

* 刈刃クラッチレバーの切替えは必ず主クラッチレバーが“OFF”の位置で行なってください。“ON”の位置で行なうと、刈刃クラッチレバーの振動でケガをする場合があります。

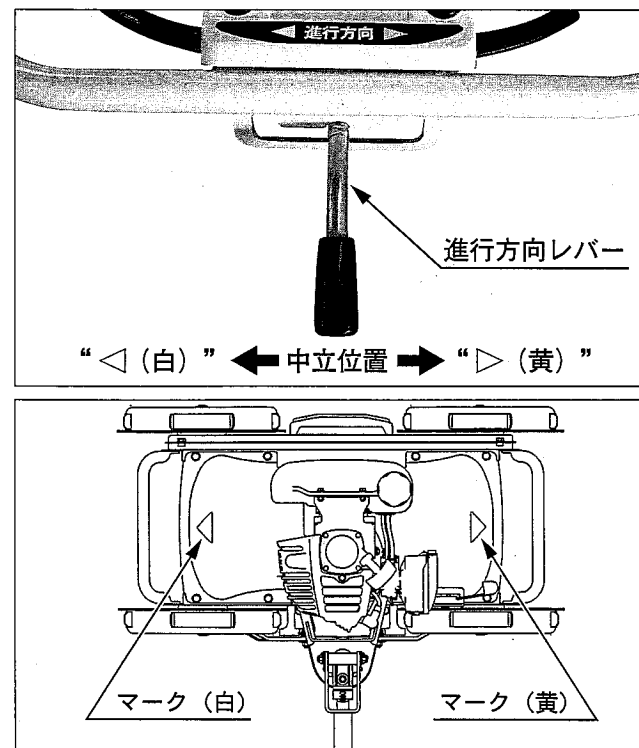
- ①作業状況に合わせて、ハンドル位置、刈高さを調節してください。
- ②エンジンを始動してください。(P11 “始動のしかた”の項参照)
- ③刈刃クラッチレバーを“入”にしてください。



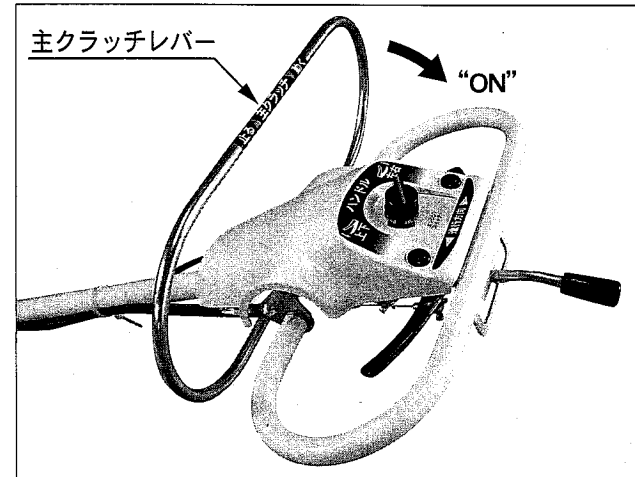
重要

※刈刃クラッチレバーの切替えは必ず主クラッチレバーが“OFF”の位置で行なってください。“ON”の位置で行なうと、機械の故障につながるおそれがあります。

- ④進行方向レバーを進みたい方向に入れてください。



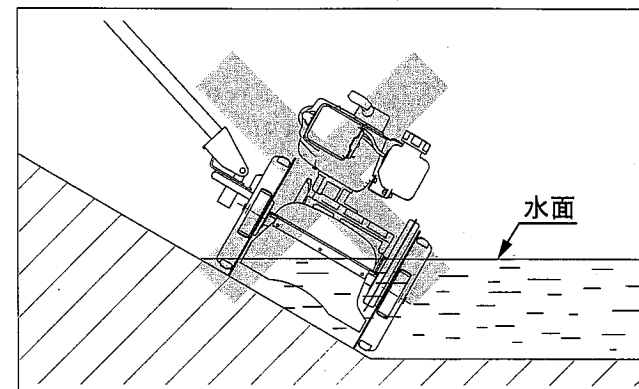
- ⑤主クラッチレバーを“ON”にしてください。刈刃が回転し、機械が走行します。足元に注意して草刈り作業をしてください。



- ⑥作業が終了したら停止させます。(P13 “停車のしかた”の項参照)

重要

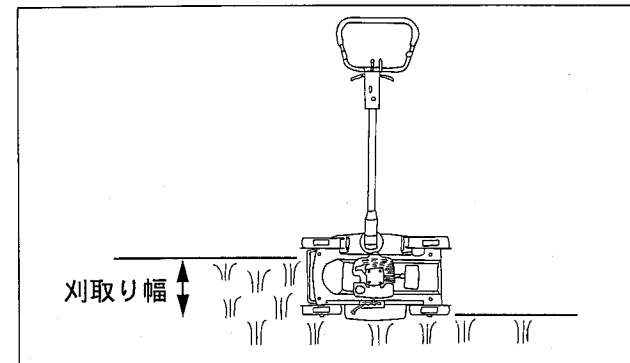
- ※つる草が巻きついたりその他異物が絡まった場合は、すぐにエンジンを止めそれらを取除いてください。
- ※条件(草丈、草の密集ぐあいなど)によって草刈り作業時にエンジン回転数が落ち、機械が進んでいるのか止まっているのかわからない状態になる場合があります。このような状態が続けますと、エンジンの遠心クラッチが焼付くおそれがありますので、刈高さを高くするか、刈取り幅を狭くして作業してください。
- ※石や異物に刈刃が当たると機械が損傷する場合があります。石や異物は事前に確実に除去してください。
- ※水田や水路に車輪を入れて作業すると、チェーンケースのすきまから泥水が浸入してチェーンが固着し、機械が破損する場合があります。車輪は水につけないで作業してください。



補足

※進行方向の切換えは走行時(主クラッチレバーが“ON”状態)でも行なえます。但し、車輪に高負荷がかかった時は切換わらないこともあります。切換えできない時は主クラッチレバーを離し、機体を左右に動かしてから、進行方向レバーを操作してください。

※刈取り幅を狭くすると刈残しもなく、きれいに仕上がります。



■法面での作業のしかた

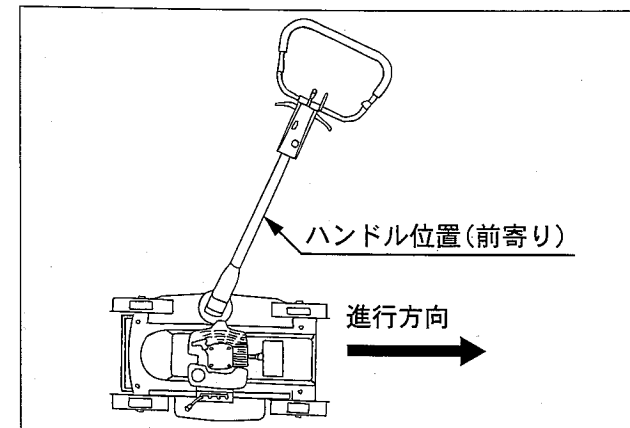
！ 注意

※必ず滑り止めのついた安全靴を履いてください。

作業者は必ず機械の上(山)側に立ち作業してください。ハンドル位置は機械の進行方向に対して少し前寄りに合わせると、機械の進行方向がコントロールしやすく楽に草刈り作業ができます。

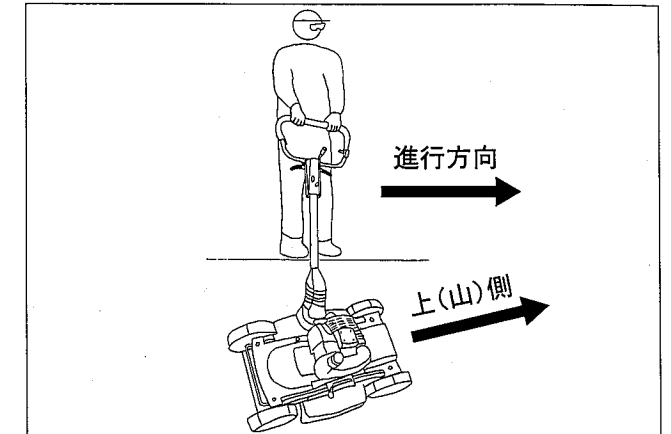
補足

※ハンドルを進行方向に対してすこし前寄りにすると、機械の進行方向のコントロールが行ないやすくなります。



また、急な法面(20°～50°)では、作業者は平坦地に立ち、機械のみを法面に入れて作業してください。急な法面(20°～50°)では、機械を平行に走行させても徐々に下向きに進行します。機械の進行方向を少し上

(山)側に向けて作業するとほぼ平行に走行し、楽に草刈り作業ができます。

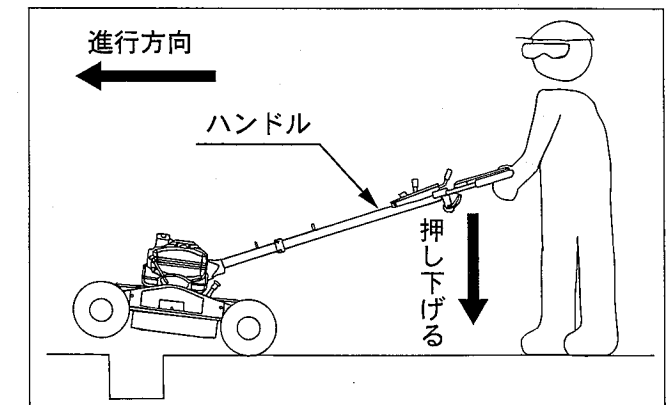


■溝越えのしかた

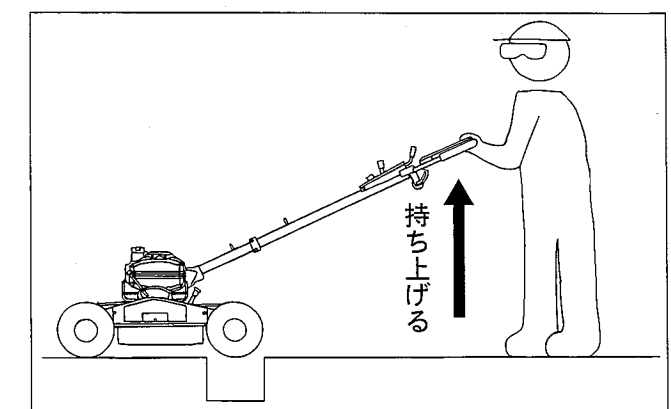
！ 警告

※溝越えするときは、刈刃クラッチレバーを必ず“切”にしてください。

- ①作業者が進行方向の後側に立つように、ハンドル位置を調節します。
- ②ハンドルを押し下げて前側の車輪を浮かせて進みます。



- ③前側の車輪が溝を越えた後、ハンドルを持ち上げ、後側の車輪を浮かせて進みます。



メンテナンス

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

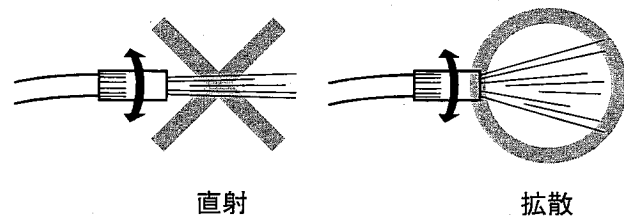
重要

＊機械を損傷させないように洗車ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。

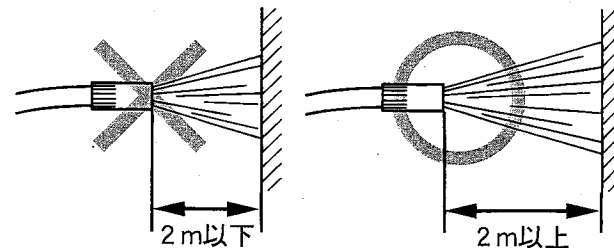
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、機械の破損・損傷・故障の原因になります。

- 例) (1) シール・ラベルの剥がれ
(2) エンジン内部への浸入による故障
(3) オイルシール・飛散防止カバーなどのゴム類、樹脂類の破損
(4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



定期点検と処置



警告

＊エンジンは、必ず停止してください。

＊作業中は火気厳禁です。

＊取外したカバー類は、必ず取付けてから作業をしてください。



注意

＊機械は平たんで、周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。配線及びマフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着・たい積などがあると火災の原因となります。

＊ヤケド防止のため、エンジンがじゅうぶんに冷えてから作業を行なってください。

＊燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。

＊燃料キャップは確実に締めてください。

重要

＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた購入先にご相談ください。

＊オイルを点検・補給・交換するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確なオイル量の点検・補給・交換ができません。

＊使用するミッションオイルは、指定のオイルを必ず使用してください。

補足

＊定期点検は、次頁の点検・交換一覧表に基づき行なってください。

＊定期点検・交換一覧表に示す時間は一般的な目安です。異常を感じたときはそのつど、調整または交換をしてください。

定期点検・交換一覧表

※：毎作業前点検
○：点検と調整・掃除・締付け
△：交換

時 間			点検・交換時期										参 照 ページ		
			時 間								それ以降				
点検箇所・項 目			点検	交換	25	50	75	100	125	150	175	200	点 検	交 換	
エ ン ジ ン 部	エアクリーナエレメント ※	掃除	交換	○	△	○	△	○	△	○	△		毎作業前	50時間または1年ごと	7,28
	メッシュカバー ※	掃除	—	毎 作 業 前								毎作業前	—	8	
	シリンダフィン	掃除	—				○					○	100時間ごと	—	29
	マフラ周辺部 ※	掃除	—	毎 作 業 前								毎作業前	—	8	
	点火プラグ	点検	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	—	27
	燃料キャップ	点検	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	—	27
	燃料フィルタ	点検	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	—	28
	燃料パイプ	点検	交換	25時間ごと点検, 1年後交換								25時間ごと	1年ごと	28	
走 行 ・ 操 作 部	マフラ	掃除	—				○					○	100時間ごと	—	28
	駆動チェーン	点検	交換	○	○	○	○	○	○	○	○	△	25時間ごと	200時間ごと	25
	走行ワイヤ	調整	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	—	26
	ハンドル上下ロックワイヤ	調整	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	—	26
	ハンドル左右ロックワイヤ	調整	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	—	26
	ブレーキワイヤ ※	調整	—	毎 作 業 前								毎作業前	—	10,27	
	スロットルワイヤ	調整	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	—	26
	ブレーキバンド	—	交換									△	—	200時間ごと	—
刈 取 部	車輪駆動ボルト	—	交換	折損したら交換								—	折損時	25	
	刈刃・刈刃ボルト ※	点検	交換	○	△	○	△	○	△	○	△	○	25時間ごと	50時間ごと	9,23
	爪付きザガネ・回り止めナット ※	点検	交換	○	△	○	△	○	△	○	△	○	25時間ごと	50時間ごと	9,23
	小判ザガネ・溝付きナット	点検	交換	○	△	○	△	○	△	○	△	○	25時間ごと	50時間ごと	23
	ホルダ ※	点検	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	—	9
	ホルダ取付けナット ※	点検	交換	○	△	○	△	○	△	○	△	○	25時間ごと	50時間ごと	9,23
	飛散防止カバー ※	点検	—	毎 作 業 前								毎作業前	—	8	

点検・注油一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量 (L)	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前(作業時)	—	●容量……1.0	潤滑油混合ガソリン	7
オイル	ミッションケース	補給 交換	50時間ごと	100時間ごと	●規定量 検油口からオイル がにじむまで ……………0.44	ギヤオイル SAE No.90	22
	車軸	注油	25時間ごと	—	適量	ギヤオイル	23
グリース	駆動チェーン	塗布	25時間ごと	—	適量	グリース	22

各部オイルの点検・補給・交換・注油

点検・補給・交換・注油の時期と種類については、P 21の“点検・注油一覧表”をご参照ください。



警告
*点検・調整・交換をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

■ミッションケースオイルの点検・交換 重要

*ミッションオイルの量が多すぎるとミッション内部の圧力が上昇し、故障の原因となる場合があります。

◆点検と補給

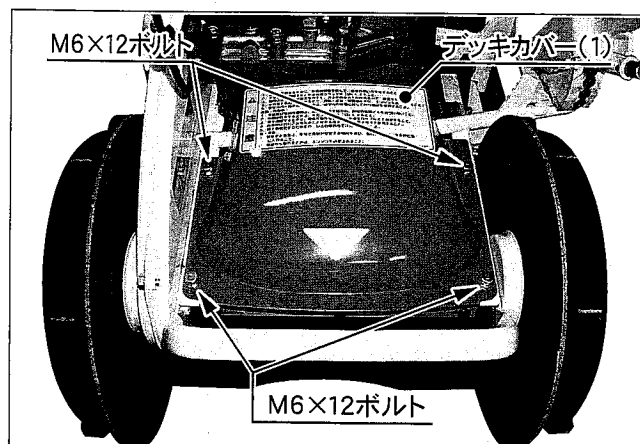
刈高さを「高」にし、検油栓を外して検油口からオイルがにじみ出てくれば適正量です。量が多い場合は検油口から排油してください。不足の場合は補給してください。



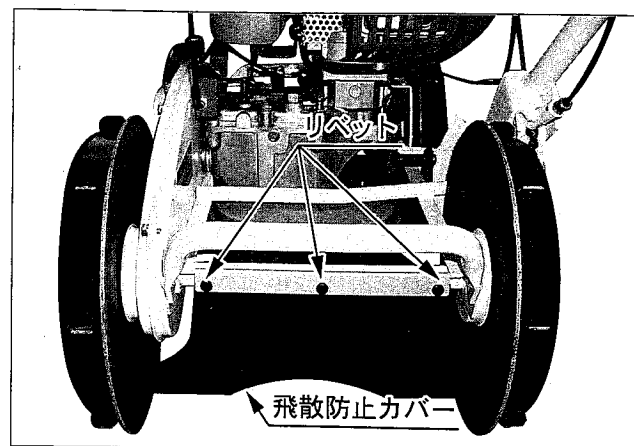
◆交換

●排油のしかた

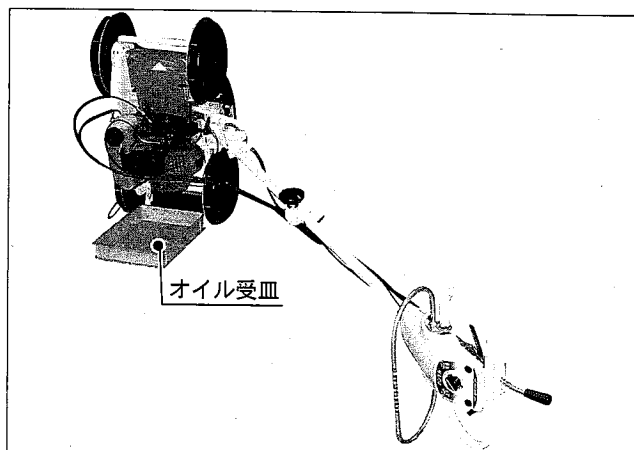
- ①デッキカバー (1) を外します。
(M 6×12ボルト……………4個)



- ②デッキカバー (1) 側の飛散防止カバーを外します。
(リベット……………3個)



- ③ハンドル位置を中央の最上段にし、検油栓を下にして本機を傾け、検油栓と給油プラグを外してオイルを排出してください。このとき、オイル受皿を用意し排出してください。



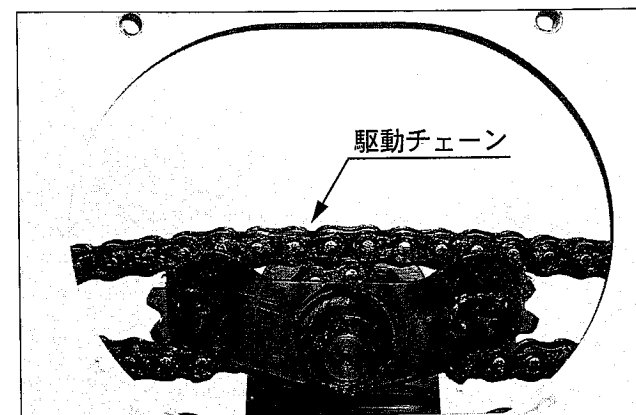
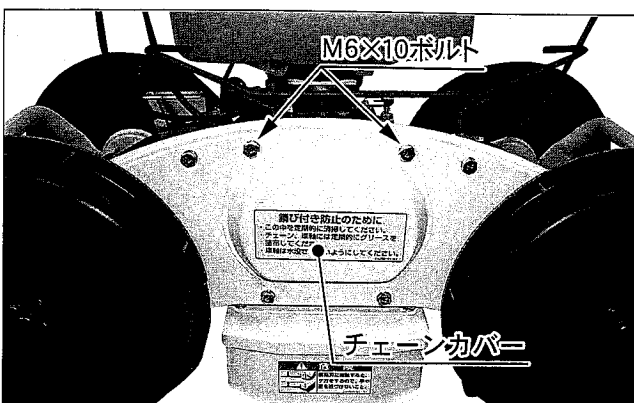
●給油のしかた

刈高さを「高」にし、検油口からオイルがにじみ出るまで給油口から給油してください。給油後、検油口からオイルが出なくなったら給油プラグ、検油栓をしっかりと組付けてください。

オイルの種類	オイル量
ギヤオイル SAE No.90	0.44 L

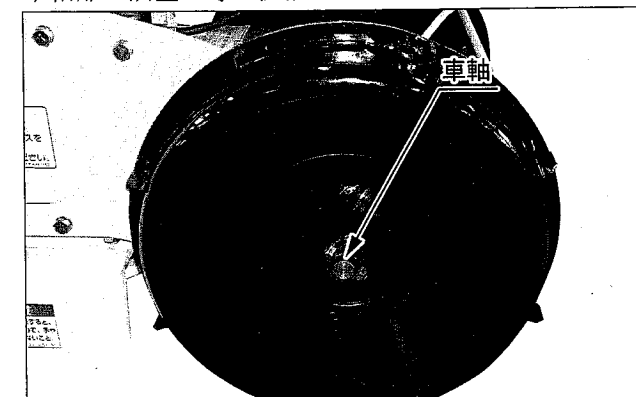
■駆動チェーンへのグリース

チェーンカバーを外してグリースを塗布してください。
(M 6×10ボルト……………2個)



■車軸への注油

車軸部に油差し等で注油してください。



各部の点検・調整・清掃・交換



警告
*点検・調整・交換をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

■刈刃の交換

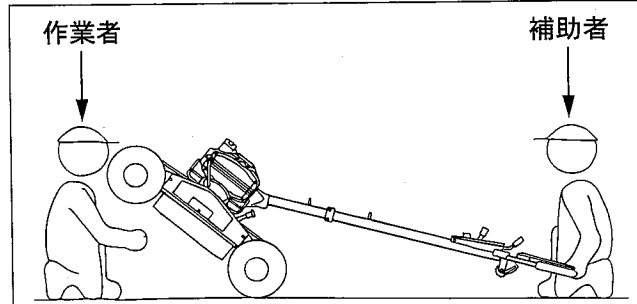
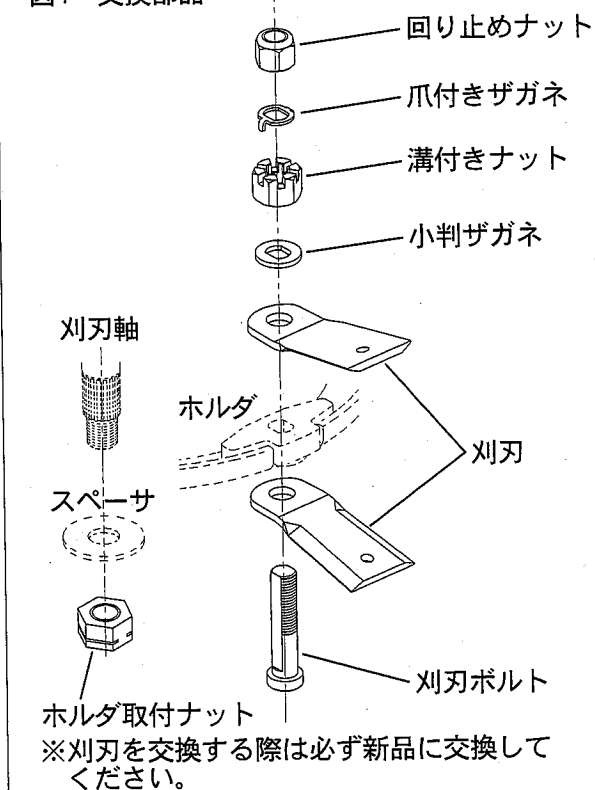


危険
*各部品は組付け順序を間違えないよう、確実に組付けてください。誤った方法で組付けると、作業中に刈刃が外れ、重大な事故を招くおそれがあります。



注意
*手袋を着用し、刃先に注意しながら作業してください。
*刈刃を交換する際は、右図1のすべての部品を必ず同時に交換してください。(古い部品は絶対に使用しないでください。)
*交換部品は必ずメーカー指定の純正品をお使いください。
*刈刃の交換作業は一人で行わず、必ず二人で行ってください。ハンドルをしっかりとささえてもらいながら作業してください。

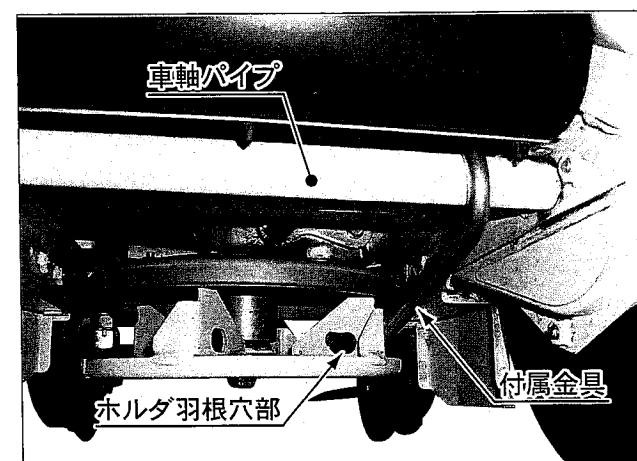
図1 交換部品

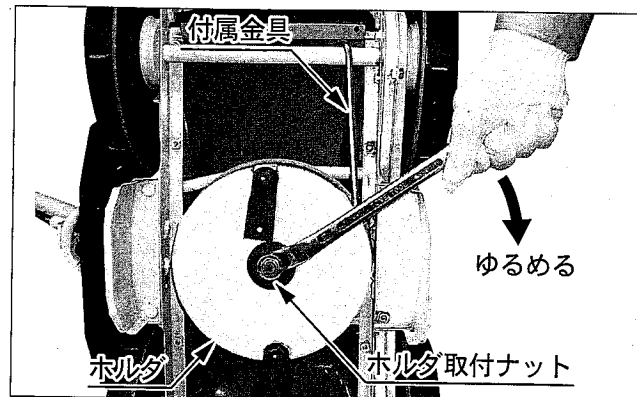


- ①付属金具を、車軸パイプとホルダ羽根穴部にかけてホルダを固定し、ホルダ取付ナットをゆるめてホルダを外します。

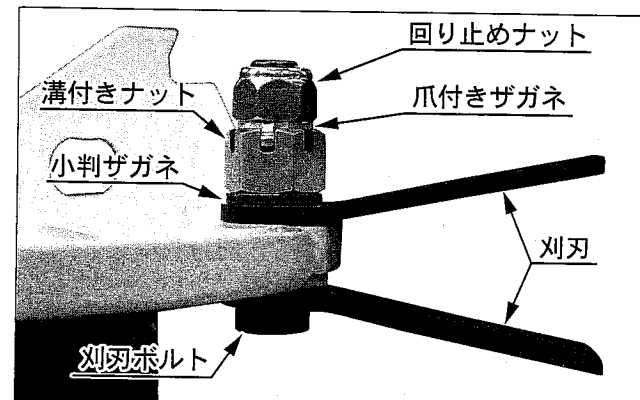
重要

*ホルダ取付ナットは左ネジ（反時計回りで締まる）になっています。

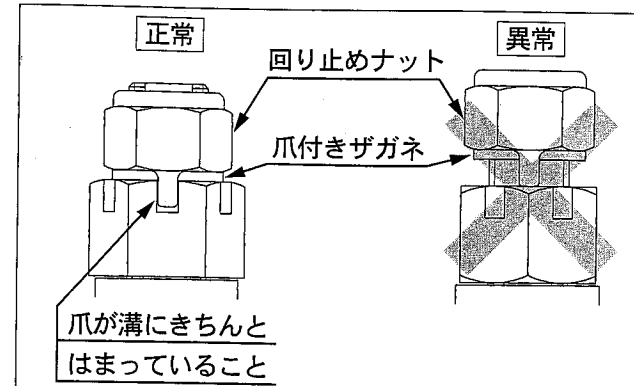
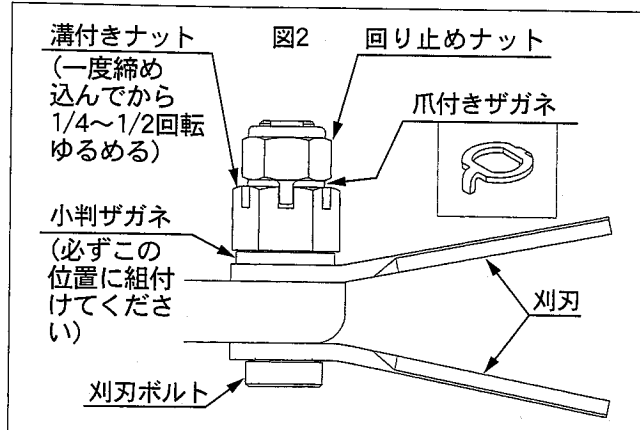




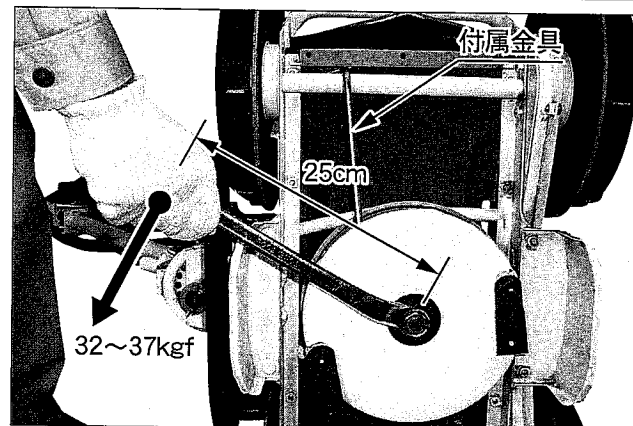
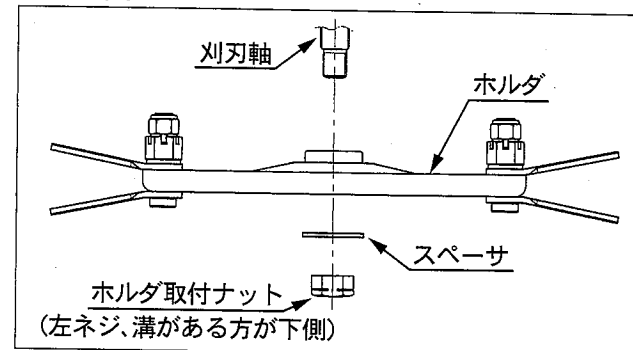
② 回り止めナットをゆるめて、爪付きザガネを外します。



- ③ 溝付きナットをゆるめて、刈刃ボルトを下側から抜いて刈刃を外します。
- ④ 新しい刈刃、刈刃ボルト、小判ザガネは左図1のように組付けます。
- ⑤ 溝付きナットは下図2の向きで、一度最後まで締め込みます。
- ⑥ 溝付きナットを少し (1/4～1/2回転) ゆるめた状態で、爪付きザガネの爪が溝付きナットの溝にはまるように、溝付きナットの位置を調整してください。このとき上下の刈刃が手で軽く回転することを確認してください。
- ⑦ 爪付きザガネの爪が溝付きナットの溝にきちんとはまっている事を確認し、回り止めナットを20～22N・mで締め付けてください。(例：長さ15cmのスパナで14～15kgf)



⑧ 下図の順序でホルダ、スペーサを刈刃軸に取付けてください。ホルダ取付ナットを締付ける際は、車軸パイプとホルダ羽根穴部に付属金具をかけてホルダを固定し、77.5～90.2N・m (790～920kgf・cm) のトルクで締め付けてください。長さ25cmのメガネレンチを使用した場合、締め付け荷重は32～37kgfになります。



重要

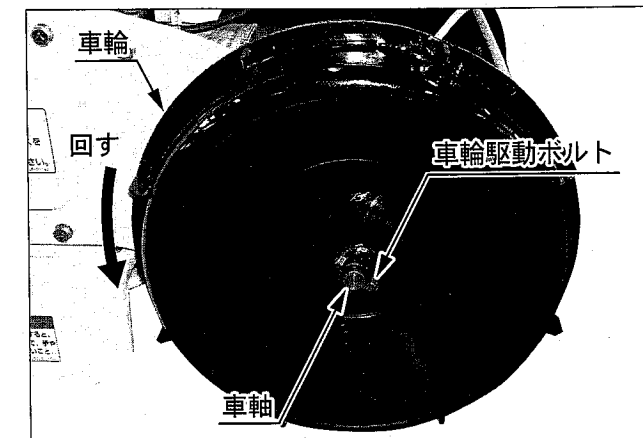
- ＊ホルダ取付ナットを締付ける際は、トルクレンチもしくは柄の長いソケットレンチ、メガネレンチ等を使用してください。
- ＊ホルダを取付ける際は必ずスペーサを組付け、規定のトルクでしっかりと締め付けてください。締め付けがゆるいと作業中にホルダが脱落し、故障の原因になります。
- ＊ホルダ取付ナットを締め込んで行くと途中で抵抗を感じますが、ホルダにガタつきがある間はナットは締まっていません。ホルダのガタつきがないように、規定のトルクでしっかりと締め付けてください。

＊ホルダ取付ナットには、ねじ部に潤滑剤が塗布されています。刈刃軸とのカジリ防止のために、この潤滑剤は除去しないで使用してください。

車輪駆動ボルトの交換

車輪駆動ボルトが切断・折損などした場合は下記の要領で交換してください。

① 車輪を手で回し、車軸と車輪の穴位置を合わせます。

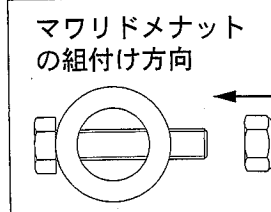


- ② ピンヌキなどで穴に残っているボルトを抜きます。
- ③ 新しいボルトを穴に入れ、マワリドメナットを組付けます。



重要

- ＊マワリドメナットは軽く締め込む程度で充分です。マワリドメナットを強く締め過ぎると、車輪駆動ボルトが切断しやすくなります。
- ＊車輪駆動ボルトを交換する際は、マワリドメナットも必ず同時に交換してください。
- ＊車輪駆動ボルト、マワリドメナットは、必ずメーカー指定の純正品をお使いください。



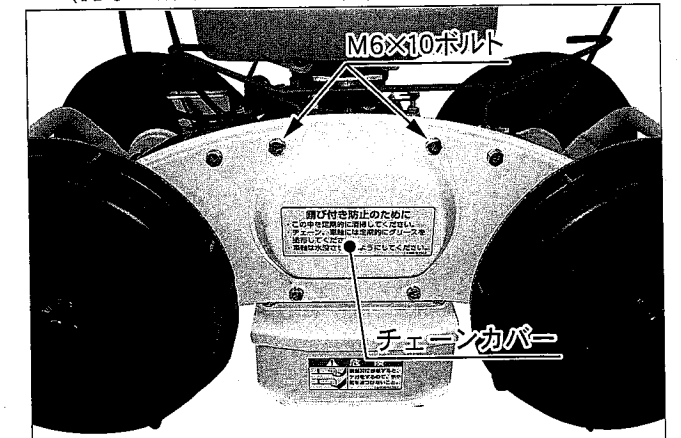
補足

＊車輪駆動ボルトには車輪に高負荷が掛かると折れて、機械の損傷を防ぐ役割があります。

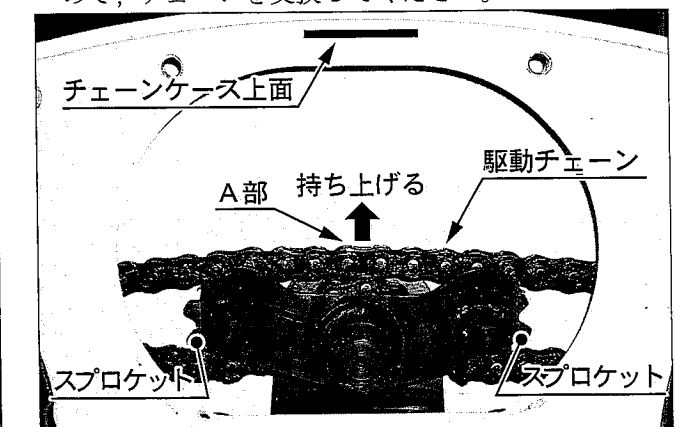
駆動チェーンの点検・調整

点検

- ① チェーンカバーを外します。
(M6×10ボルト……2個)



- ② 進行方向レバーを中立位置にし、駆動チェーンのA部を持ち上げて、チェーンケース上面と接触する場合は、チェーンが山越えし、故障の原因になりますので、チェーンを交換してください。



重要

- ＊チェーンを持ち上げて元に戻すときは、スプロケットの歯にチェーンを掛けてください。
- ＊チェーンの交換は購入先にお願ひしてください。

清掃

チェーンカバー内部のごみを取除き、チェーンにグリースを塗布してください。

■各ワイヤの点検・調整

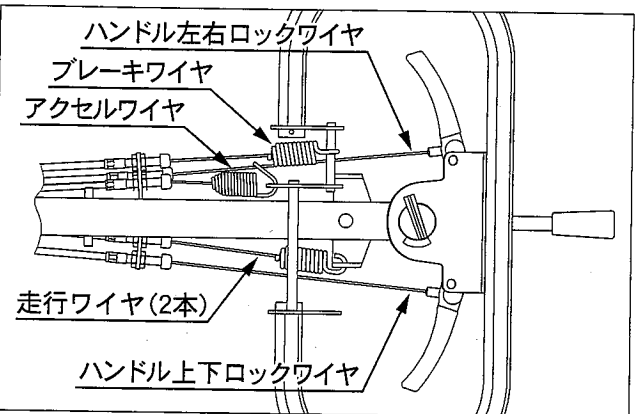
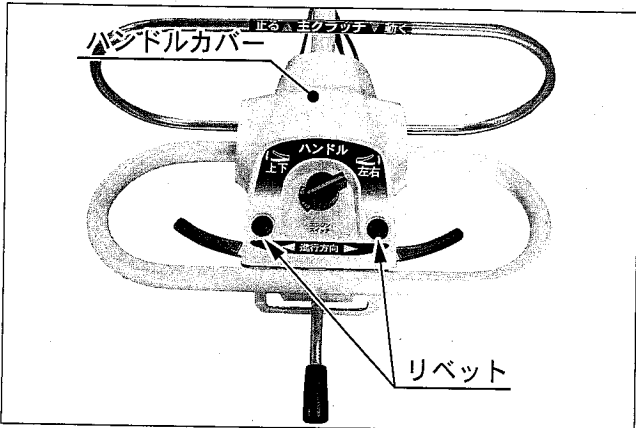


注意

*各ワイヤの調整後はロックナットを確実に締付けてください。

各ワイヤを調整する際はハンドルカバーを外してください。

(リベット……………2個)

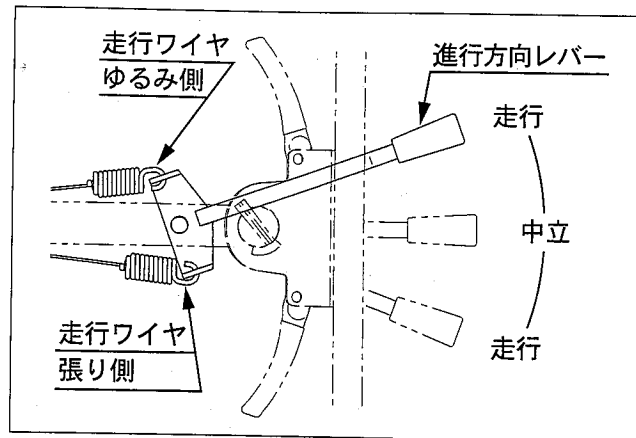


◆走行ワイヤの調整

- 走行時、車輪が時々停止することがある。
- 進行方向レバーを切換えても機体の進行方向が変わらない。
- 進行方向レバーが中立位置で主クラッチレバーを“ON”にすると走行する。

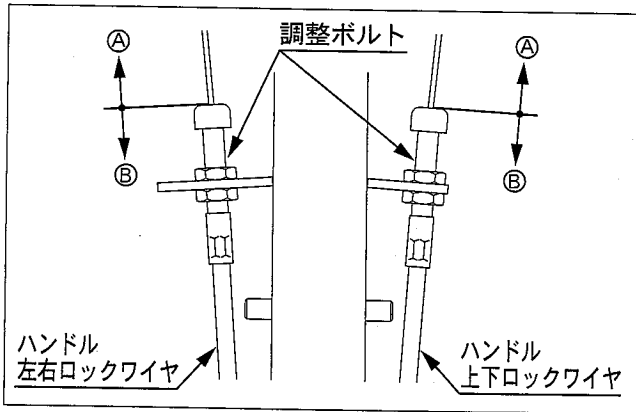
このようなときには、ワイヤを調整してください。

- ①進行方向レバーを中立位置にしたとき、走行ワイヤに遊びがない様にワイヤの張りを調整します。このとき、左右のワイヤは同程度に張る様にしてください。
- ②進行方向レバーを走行位置に入れ、車輪を回転させロックさせてから、レバーを中立位置に戻し、車輪が1回転以上空回りすることを確認してください。
- ③②で進行方向レバーを中立位置に戻しても、車輪が空回りしない場合は、ゆるみ側のワイヤを少し張ってください。
- ④どちらの走行位置でも②が確認できれば、調整完了です。



◆ハンドル上下ロックワイヤ、ハンドル左右ロックワイヤの調整

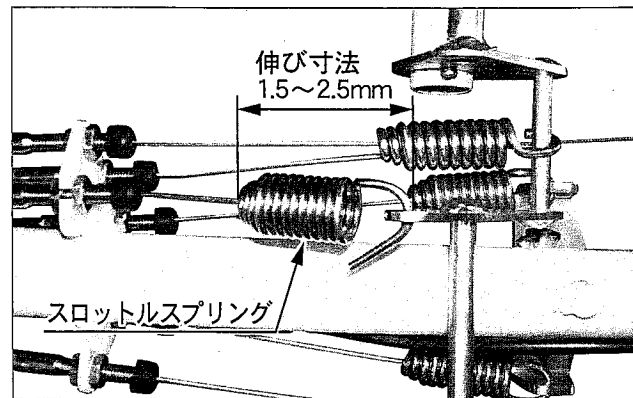
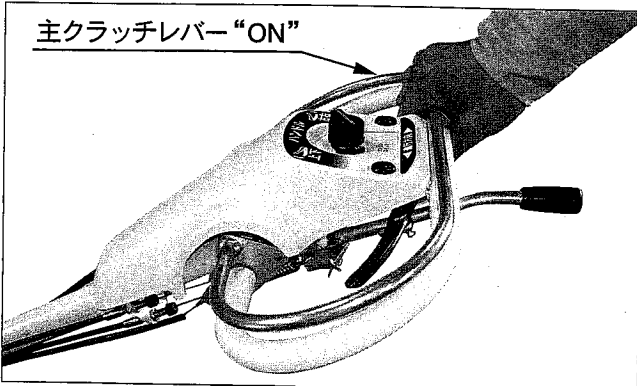
- ツメのかかり代が少なく負荷がかかると抜ける場合。
→調整ボルトをAの方向へ移動させる。
- ツメが完全に抜けきらない場合。
→調整ボルトをBの方向へ移動させる。



◆スロットルワイヤの調整

重要

- *主クラッチレバーが“OFF”の位置ではスロットルワイヤに遊びを設けてあります。
 - 主クラッチレバーを“ON”にしても、スロットルスプリングに伸びがなくエンジン回転数が上がらない場合は、ワイヤを調整してください。
- 主クラッチレバーが“ON”の位置でスロットルスプリングの伸び寸法が1.5～2.5mmとなるようにスロットルワイヤを調整します。

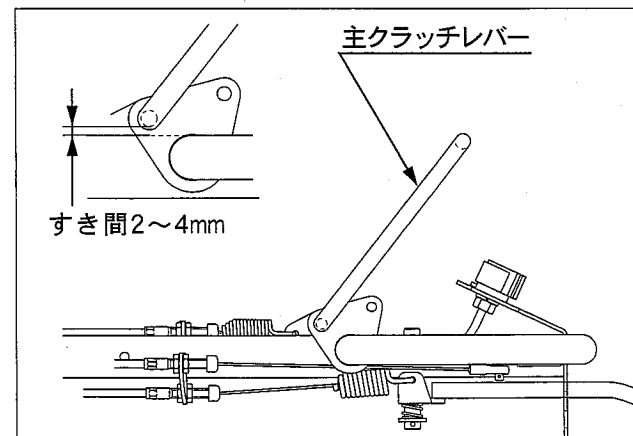


◆ブレーキワイヤの調整

重要

- *主クラッチレバーが“OFF”の位置では、ブレーキワイヤに遊びを設けてあります。
- *ブレーキワイヤが調整不良の状態で使用を続けると、機械の故障につながるおそれがあります。

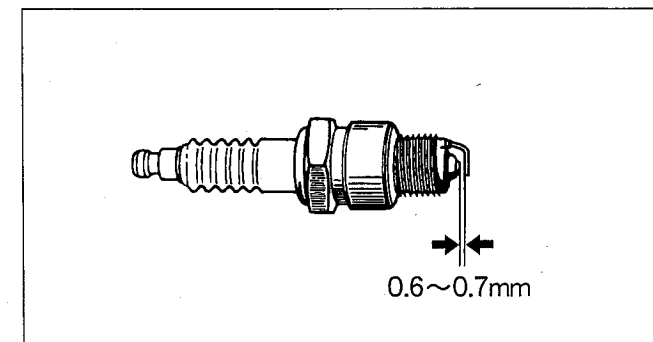
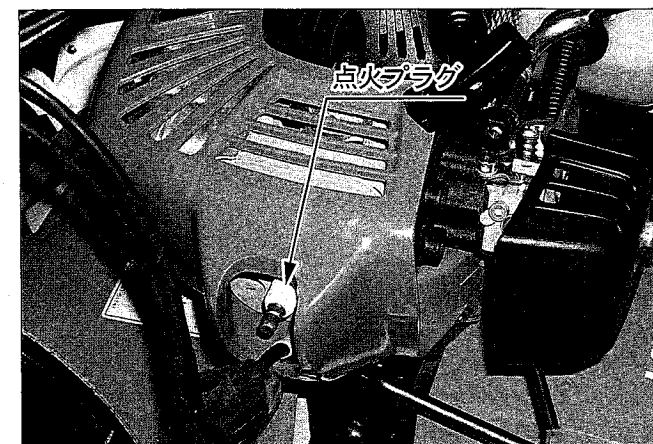
- 草刈り作業時、主クラッチレバーを“OFF”にしても機体が惰性で走行し、すぐに停止しない。
 - 主クラッチレバーの遊びが大きいつき (P10 “ブレーキワイヤの点検” の項参照)。
- このようなときは、ワイヤを調整してください。
- 主クラッチレバーが“OFF”でフリー状態のとき、主クラッチレバー先端とハンドル上面のすき間が2～4mmとなるようにブレーキワイヤを調整します。



■点火プラグの点検・清掃

- ①プラグレンチを使い点火プラグを外します。
- ②点火プラグがカーボンで汚れている場合には、プラグクリーナ、又はワイヤブラシなどで汚れを落としてください。
- ③電極のすき間が広いときは、0.6～0.7mmに調整してください。(市販のすき間ゲージを使用するか、官製はがき3枚の厚みを目安にしてください。)

使用プラグ	NGK	BPMR8Y
-------	-----	--------



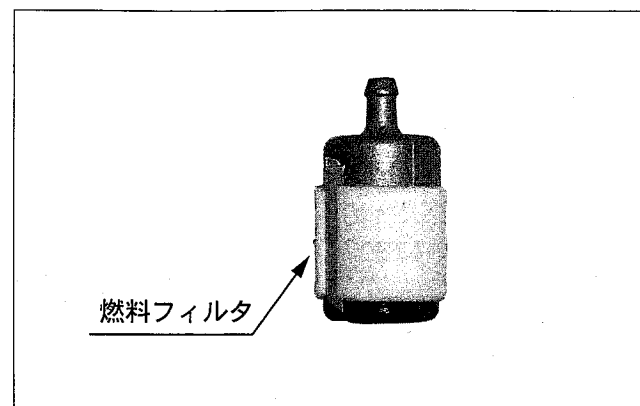
■燃料キャップの点検・清掃

通気バルブが詰まっていないか点検してください。詰まっているときは、細い針金のようなものでごみを取除いてください。



■燃料フィルタの点検

燃料フィルタを引出し、詰まっているか点検してください。詰まっているときは交換してください。



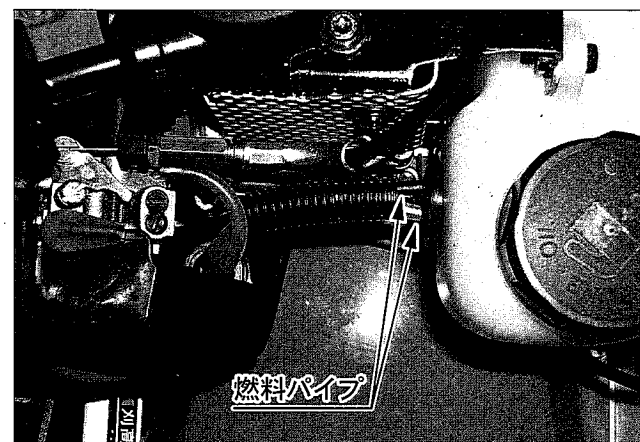
■燃料パイプの点検



*燃料パイプが破損していると燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。

▶もし怠ると……

火災など傷害事故の危険があります。燃料パイプは、使わなくとも老化する消耗品です。1年ごとまたは、いたんだときには交換してください。



■マフラの清掃

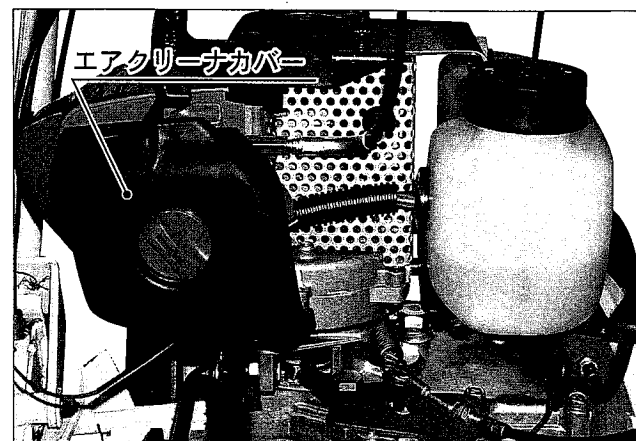
エンジンカバーとマフラを外し、マフラの開口部にドライバを入れてカーボンを落としてください。

■エアクリーナエレメントの洗浄

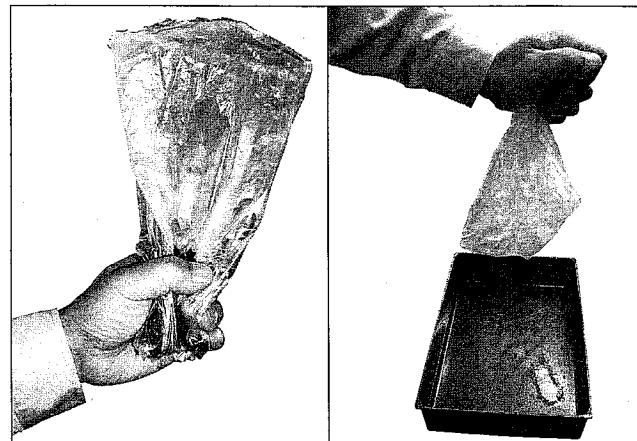
重要

*エアクリーナエレメントは洗浄すれば繰返し使用できますが、破損したり1年以上経過したものは新品に交換してください。

- ①エアクリーナカバー周辺のゴミやホコリを取除く。
(清掃中のゴミ侵入を予防する)
- ②エアクリーナカバーを外す。



- ③エレメントの表面のゴミを掻き落とした後、エレメントを外す。
(エンジン内部にゴミが入らないよう注意する)
- ④オイルパンにエレメントが浸る程度に白灯油を入れ、エレメントを揉むように洗浄し、固く絞る。
- ⑤エレメントにオイルをしみ込ませる
 - 洗浄したエレメントに2サイクルオイルを約10cc含ませ清潔なビニール袋に入れ揉み、オイルを全体に行き渡らせる。
 - ビニール袋を逆さにしてしっかり握り、余分なオイルをオイル受けに流出させる。



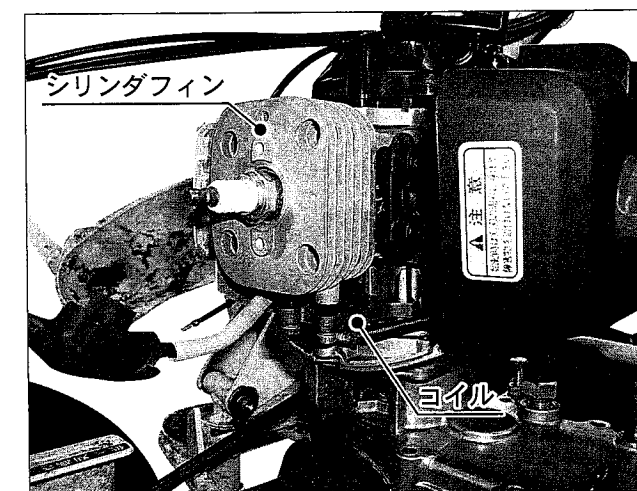
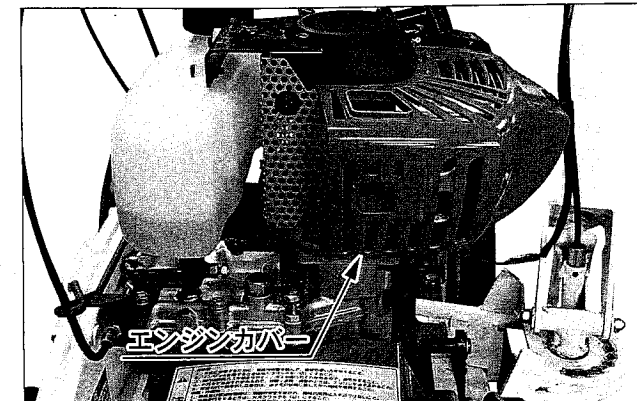
- ⑥オイルを含ませたエレメントをエンジン内部にゴミを入れないよう注意して元通り装着する。

■シリンダフィンの清掃



*エンジンカバー内部のシリンダフィンにほこりやゴミが詰まるとエンジンがオーバーヒートして火災を起こすおそれがあります。必ず点検し清掃してください。

エンジンカバーを外し、シリンダフィンおよびコイル周辺部を清掃してください。

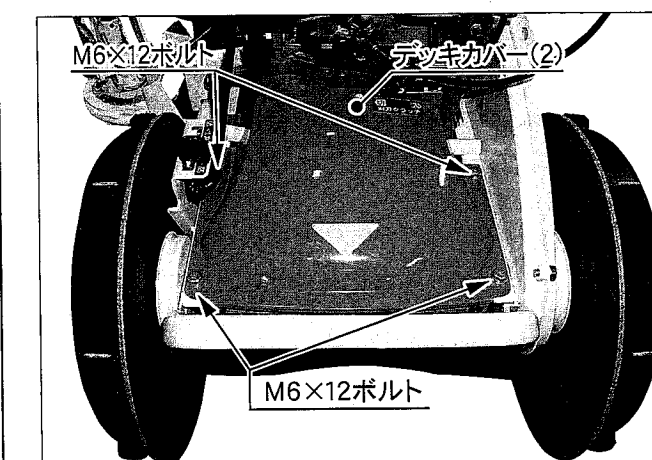
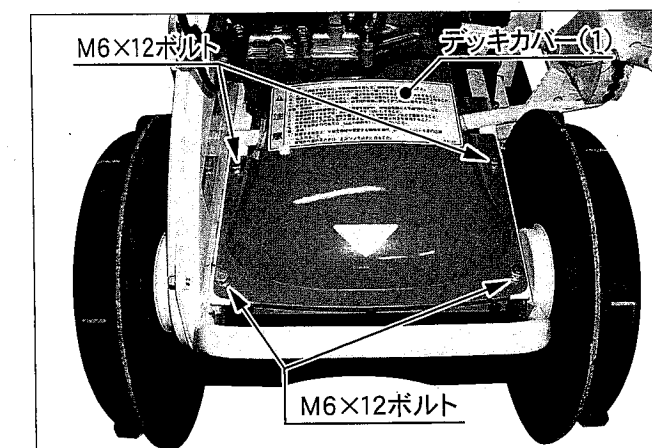


長期格納のしかた

シーズン終了後、機械を格納する場合は次のことを守ってください。

◆本機部

- ①各部に付着した泥や草を取除いてください。
- ②デッキカバー (1), (2) を外し、たい積しているゴミを除去してください。
(M6×12ボルト…8個)



- ③摩擦しゅう動部分、各レバー支点はきれいに清掃したあとじゅうぶん注油し、錆びないようにしてください。
- ④チェーン、ギヤ、車軸などにもじゅうぶん注油し、錆びないようにしてください。

◆エンジン部

- ①燃料タンクから燃料を容器に移した後、燃料フィルタを引出してください。
- ②キャブレタの始動ポンプを燃料が出なくなるまで押し、燃料タンクに戻った燃料を容器に移してください。

- ③燃料フィルタをタンクに戻し、燃料キャップを締めてください。
- ④エンジンを始動し、自然に止まるまで運転してください。
- ⑤点火プラグを取外し、2サイクルオイルを1～2 ml、エンジン内に入れてください。リコイルスタータのハンドルを2～3回引いてからプラグを元通り取付け、圧縮位置に止めてください。

重要

＊長期間（2ヶ月以上）使用しない場合は、燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が変質してキャブレタ内部が詰まり、エンジン故障（始動不良や出力不足）の原因となります。

＊保管時は、燃料キャップをゆるめにしてください。強く締め過ぎると経時変化によりパッキンが変形することがあります。

使用者が行なってはいけない修理

- 下記部品に異常があるときはお買上げの購入先に修理を依頼してください。
- エンジン本体
 - ミッションケース
 - 電気部品と電気系統

使用済廃棄物の処分について

機械の廃油や廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、湖沼への廃棄は絶対にしないでください。

廃油・燃料・フィルタ・その他有害物を捨てるときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

自走式傾斜刈機の不調と処置

もし、次のような現象が発生した場合には、エンジンを必ず“停止”し、次の表により診断し適切な処置をしてください。

わからない場合は、購入先にご相談ください。

◆エンジン部

重要

＊キャブレタは出荷時に最適な状態に調整されているので、ニードルの調整は絶対に行なわないでください。

現 象	原 因	処 置	参照 ページ
始動しない。	チョークレバーを“閉”の位置にしている。	エンジンが冷えている時、チョークレバーを“閉”の位置にする。	11
	燃料が流れない。	・燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取除く。 ・燃料フィルタを交換する。 ・始動ポンプを更に押して、じゅうぶんな燃料をキャブレタに送る。	28
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取除き、パイプを点検し、損傷があれば新品と交換または補修しておく。	28
	点火コイル、またはユニットの不良。	点火コイル、またはユニットを交換する。	—
	点火プラグの不調。	・点火プラグの電極のスキマを点検・調整・清掃する。 ・新しい点火プラグと交換する。	27
	マフラ排気出口詰まり。	詰まりを除去する。	28
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。	—
回転数が上がらない。	エアクリーナが目詰まり。	・エレメントを清掃する。 ・新しいエレメントと交換する。	7
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。	—
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを「開」の位置にする。	11
	冷却系統が目詰まりしている（オーバーヒート）。	メッシュカバー周辺を清掃する。	8
	マフラ排気出口詰まり。	マフラを清掃する。	28
	スロットルワイヤに遊びがあり過ぎる。	スロットルワイヤを調整する。	26
	燃料フィルタが目詰まり。	燃料フィルタを交換する。	28
回転数が変動する。	燃料フィルタが目詰まり。	燃料フィルタを交換する。	28
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	点火コイルを交換する。	—
	燃料フィルタが目詰まり。	燃料フィルタを交換する。	28
主クラッチレバーを“OFF”にするとエンストする。	アイドルリング回転数が低すぎる。	アイドルリングの回転数を調整する。	—
排気にオイルが混じる。	混合比が高い。	正規の混合比にする。	7
エンジンから異音がある。（乾いた音）	混合比が薄すぎる。	正規の混合比にする。	7
突然停止する。	燃料不足。	燃料を補給する。	7
エンジンスイッチを“OFF”にしても止まらない。	スイッチコード接続不良。	確実に接続する。	—
燃費が悪化した。	エアクリーナが目詰まり。	エレメントを清掃する。 新しいエレメントと交換する。	7

◆本機部

現 象	原 因	処 置	参照 ページ
刈残しが出る。	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈りをする。	17
	草が密集している。	刈高さを高くして、二度刈りをする。	17
	刈刃が摩耗、破損している。	刈刃を研磨するか、新しい刈刃と交換する。	23
土を削ってしまう。 地形にうねりがある。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。	17
		草刈り作業のパターン（刈取り方向など）を変える。	—
	地形に起伏（凹凸）がある。	刈高さを高くする。	17
	刈刃が曲がっている。	新しい刈刃と交換する。	23
振動が大きい。	刈刃が破損している。	新しい刈刃と交換する。	23
	刈刃のバランスが悪い。	新しい刈刃と交換する。	23
	ホルダが破損している。	新しいホルダと交換する。	9
車輪がスリップする。	ほ場が軟弱である。	ほ場が乾いてから作業する。	—
車輪が駆動しない。	車輪駆動ボルトが折損している。	新しい車輪駆動ボルトと交換する。	25
車輪が時々停止する。	駆動チェーンが伸びている。	駆動チェーンを新品チェーンと交換する。	25
	走行ワイヤが伸びている。	走行ワイヤを調整する。	26
主クラッチレバーをOFFにしてもすぐに停止しない。	ブレーキワイヤの調整不良。	ブレーキワイヤを調整する。	27
	ブレーキバンドが破損している。	ブレーキバンドを交換する。	—
進行方向レバーを切 換えても機体の進行 方向が変わらない。	走行ワイヤが伸びている。	走行ワイヤを調整する。	26
草刈り時にエンジン 回転がダウンする。 （極端に走行速度が 遅くなる。）	草が長い。	・刈高さを高くする。 ・刈取り幅を狭くする。	17 19
	草が密集しており、負荷となっている。	・刈高さを高くする。 ・刈取り幅を狭くする。	17 19
	土を削っている。	“土を削ってしまう”の欄参照。	—

付 表

■主要諸元

商 品 名			Z G C 3 0 0 D - E Z
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1 7 3 0	
	全 幅 (mm)	4 3 0	
	全 高 (mm)	4 1 0	
	質 量 (kg)	26.8	
エ ン ジ ン	型 式	G Z 2 6 S 3 1	
	排 気 量 (cc)	25.4	
	使 用 燃 料	潤滑油混合ガソリン 〔混合比50：1（オイルFC級以上）〕	
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	1.0	
	始 動 方 式	E Z リコイル式	
走 行 部	ド ラ イ ブ 方 式	4 輪駆動	
	変 速 段 数	前・後進1段	
	作 業 速 度 (m/sec)	0.38	
切 断 部	刈 刃 形 式	ロータリー式、1軸×4枚のフリー刃	
	刈 幅 (mm)	3 0 0	
	刈 高 さ (mm)	1 9 , 3 1 （2段階）	

●この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

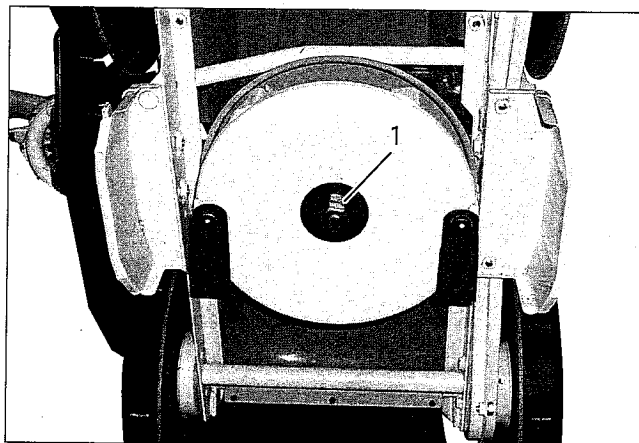
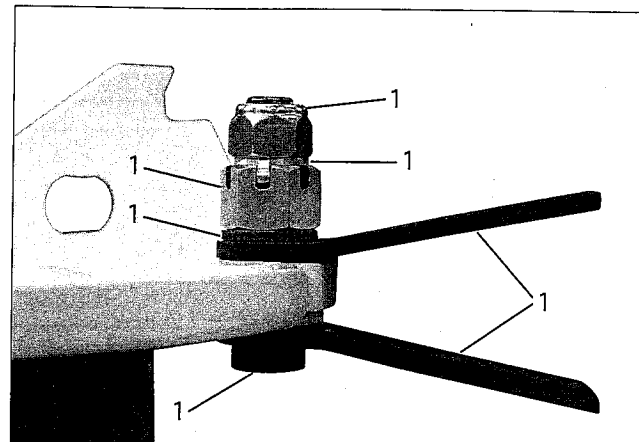
■付属品

次の部品が付属していますのでお調べください。

*取扱説明書	1
*保護メガネ	1
*保証書	1
*車輪駆動ボルト	4
*マワリドメナット	4
*プラグレンチ	1
*エレメント	1
*付属金具	1

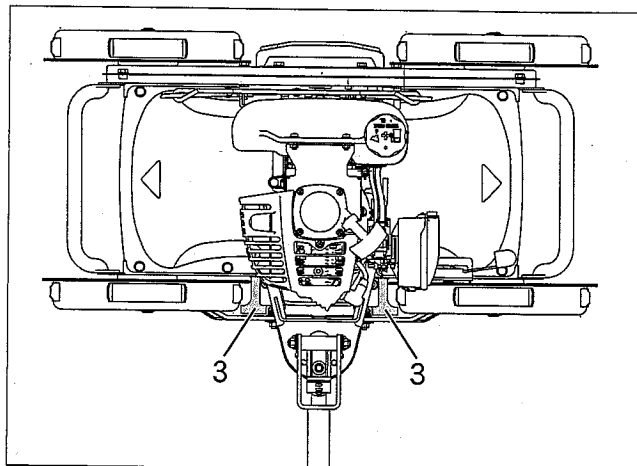
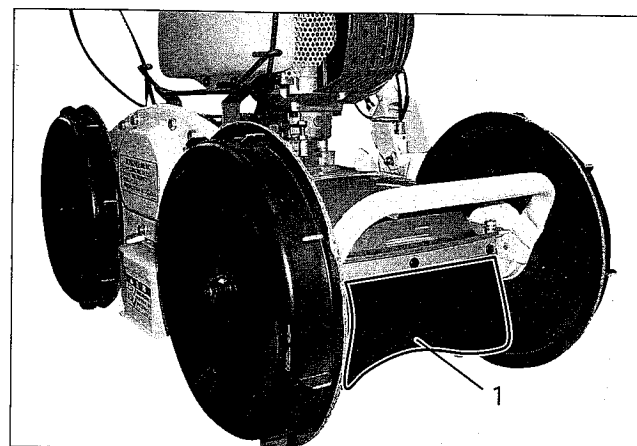
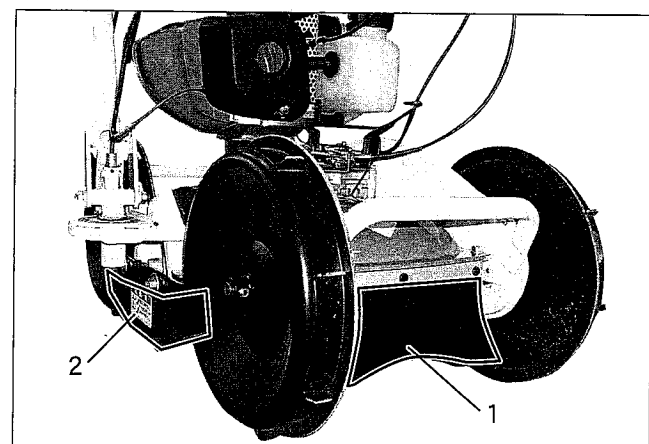
■消耗部品

◆刈刃アッシ



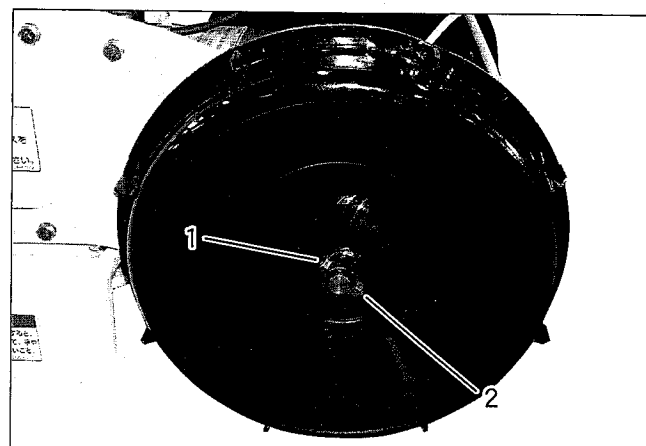
図番	部 品 名 称	メーカ-品番
1	カリハ,アッシ(M12) (内容)カリハ……………4個 ピン(カリハ)…2個 ザガネ(コバン)…2個 ミソツキナット(M10)…2個 ザガネ(マワリドメ)…2個 マワリドメナット…2個 スリットナット(M12,ヒダリ)…1個	KT L6241-9130-0

◆飛散防止カバー



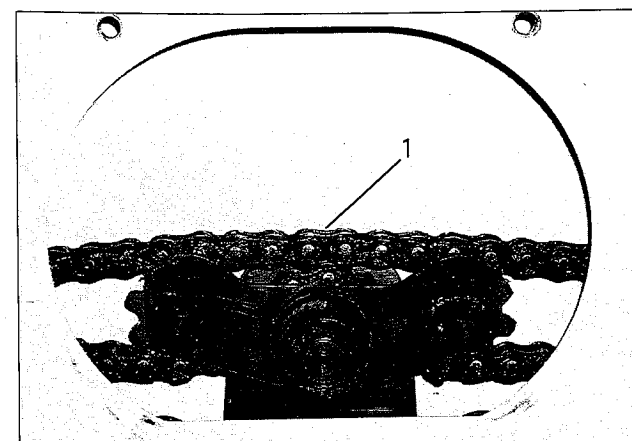
図番	部 品 名 称	メーカ-品番
1	カバー(イリグチ)	KT L6241-2117-0
2	サイドガード	KT L6241-2136-0
3	カバー(ヒサンドメ)	KT L6241-2114-0

◆車輪駆動ボルト



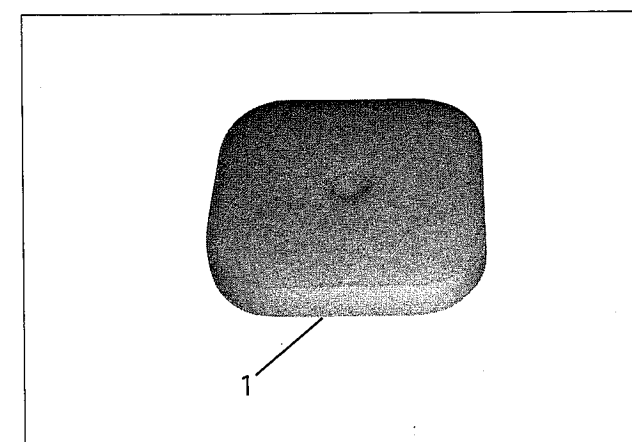
図番	部 品 名 称	メーカ-品番
1	ボルト(8.8, M5)	KT L6281-2151-0
2	マワリドメナット	KT 02556-50050

◆駆動チェーン



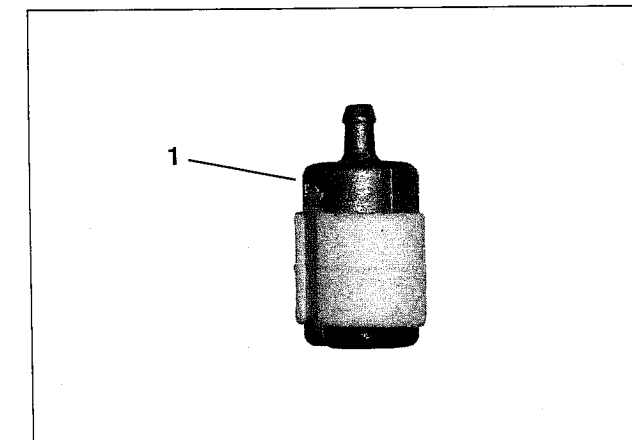
図番	部 品 名 称	メーカ-品番
1	チェーン(122)	KT L6241-2132-0

◆エアクリーナエレメント



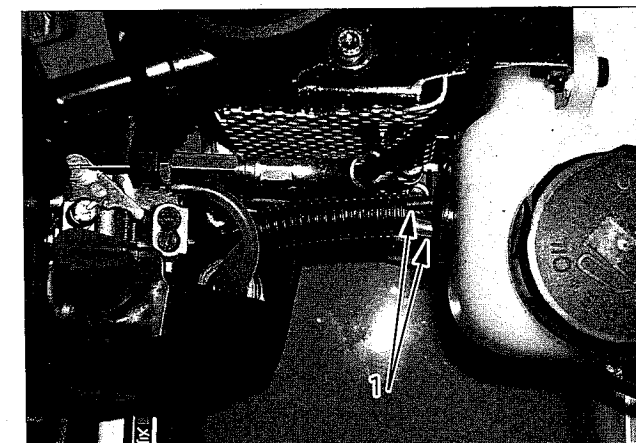
図番	部 品 名 称	メーカ-品番
1	エレメント	577805603

◆燃料フィルタ



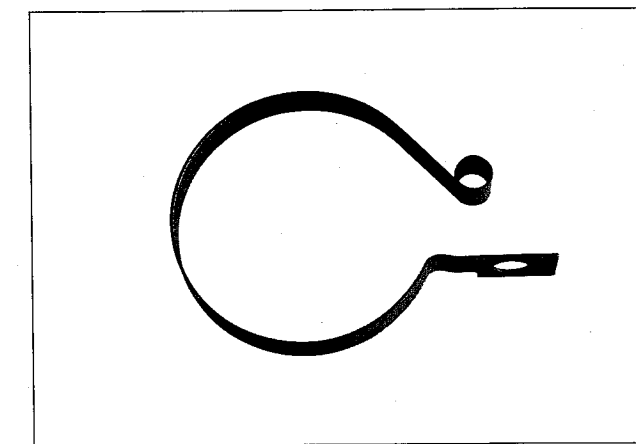
図番	部 品 名 称	メーカ-品番
1	フィルタアッセン	3306-85401

◆燃料パイプ



図番	部 品 名 称	メーカ-品番
1	パイプアッセン	577795201

◆ブレーキバンド



図番	部 品 名 称	メーカ-品番
1	ブレーキ(バンド)	KT L6241-1141-0